紀美野町第1回定例会会議録

令和6年3月5日（火曜日）

○議事日程（第2号）

令和6年3月5日（火）午前9時00分開議

第 1 一般質問

○会議に付した事件

日程第1

○議員定数 12名

○出席議員

議席番号	氏 名
1 番	徳 田 拓 嗣
2 番	中 原 和 也
3 番	桐 山 尚 己
4 番	藤 井 基 彰
5 番	上 柏 皖 亮
6 番	埴 谷 高 夫
7 番	七良浴 光
8 番	北 道 勝 彦
9 番	向井中 洋 二
10 番	伊 都 堅 仁（9時15分より出席）
11 番	美 濃 良 和
12 番	美 野 勝 男

○欠席議員

な し

○説明のため出席したもの

職 名	氏 名
町 長	小 川 裕 康
副 町 長	細 峪 康 則
教 育 長	東 中 啓 吉
消 防 長	家 本 宏
総 務 課 長	坂 詳 吾
企 画 管 財 課 長	中 前 貴 康
住 民 課 長	東 浦 功 三
税 務 課 長	坂 昌 美
保 健 福 祉 課 長	森 谷 善 彦
産 業 課 長	吉 見 將 人
建 設 課 長	米 田 和 弘
教 育 次 長	曲 里 充 司
会 計 管 理 者	太 田 具 文
水 道 課 長	長 生 正 信
まちづくり課長	湯 上 増 巳
美 里 支 所 長	(湯 上 増 巳)
代 表 監 査 委 員	菊 本 邦 夫

○欠席したもの

な し

○出席事務局職員

事 務 局 長	井 戸 向 朋 紀
事 務 局 書 記	西 本 貴 哉

開 議

○議長（美野勝男） 皆さん、おはようございます。

伊都議員から遅れる旨の連絡がありましたので報告します。

これから、本日の会議を開きます。

（午前 9時00分）

○議長（美野勝男） それでは、日程に入ります。

本日の日程は、お手元に配付のとおりです。

◎日程第1 一般質問

○議長（美野勝男） 日程第1、一般質問を行います。

質問者は、一つの項目の質問を終了し、次の質問事項に入る場合は、質問の区切りが明確になるように、次に何々について質問しますと発言願います。

なお、議長の許可を得て通告項目の順を変更することができます。

一問一答方式により、質問時間は40分です。

一般質問の通告は8人です。

本日は5人の登壇を予定しています。

それでは、順番に発言を許します。

3番、桐山尚己議員。

（3番 桐山尚己 登壇）

○3番（桐山尚己） おはようございます。では3点質問いたします。

まずは、みさとホールのさらなる利活用促進についてであります。

文化センターみさとホールは、その音響効果の高さから、音楽系のコンサートやイベントなどに適していると言われてまいりました。みさとホール自体のすばらしさに加えて、同ホールは、スタインウェイというピアノの名器を保有しています。それにもかかわらず、残念ながら従来はホールの利活用が低迷してきたと言わざるを得ません。

近年は、文化センター自主事業や、みさとホールを活用したまちづくりプロジェクト会議によるまちづくりと絡めた戦略を打ち出すなどして、徐々にその効果が出てきていると思われませんが、執行部としては、現状をどのように認識しておられるのか。また、今後どのようにみさとホールの利活用を促進していくお考えなのかをお尋ねいたします。

次に、ずさんな檜河池下太陽光発電事業計画とその影響について伺います。

檜河池下の太陽光発電事業計画については、隣接地主との間で紛争めいた事態になっていることは、執行部もよく御存じのとおりであります。このようなおかしな状況を打開すべく、行政として積極的に関与すべきであると考えます。

前回12月の一般質問の際には、町ができることに関して、顧問弁護士に相談するとのでありましたが、その結果についてお答えください。

また、昨年11月13日に事業者が行った地盤調査、SWS試験ですね、これから既に3か月半も経過しているにもかかわらず、その結果については、近隣住民は事業者から一切知らされておられません。どのような調査結果であったのか、町としては把握されているのでしょうか。

そして、これまで伊都議員が複数回にわたって一般質問で取り上げてこられたように、当該の事業計画地一帯には、和歌山県の絶滅危惧種、具体的には絶滅危惧1類に指定されているニホンアカガエルの生息が確認されており、その保護が急がれます。

檜河池下で発見されたニホンアカガエルについては、既に新聞などのメディアでも複数回取り上げられ、和歌山県民の注目が集まっているわけではありますが、既に当該事業計画地一帯は重機で踏み固められたような状態になっており、生息していたニホンアカガエルの命及び生息環境が著しく破壊された状況にあります。この貴重な絶滅危惧種を紀美野町として保護していく意思があるかどうかについてお聞きいたします。

最後に、12月の一般質問にてお尋ねした美里の湯かじか荘及び毛原オートキャンプ場の指定管理者の交代、引継ぎについて確認いたします。

同施設の指定管理者は、本年4月1日をもって交代することになりましたが、新旧指定管理者間における引継ぎの進捗状況と、未解決の課題、問題があるのであれば、その内容、そして解決の見通しについてお伺いいたします。

以上です。

(3番 桐山尚己 降壇)

○議長(美野勝男) それでは、桐山尚己議員の質問に対する当局の答弁を求めます。

曲里教育次長。

(教育次長 曲里充司 登壇)

○教育次長(曲里充司) おはようございます。

桐山議員の1問目のみさとホールの利活用のさらなる促進を、それから、桐山議員の

2問目の3番目、ニホンアカガエルを保護していく意思があるのかについて、お答えさせていただきます。

まず、1問目のみさとホールの利活用のさらなる促進については、文化センターは、平成10年4月に竣工し、当初より数多くのイベントが行われ、町内外の方にも親しまれる施設です。みさとホールは関西圏でも数少ないシューボックス型で、残響時間1.7秒のクラシック音楽専用ホールで、ピアノはスタインウェイ社D274型を備えています。このホールのすばらしさを、広く県内外の音楽家や音楽を親しむ多くの方々へ知っていただくとともに、町内宿泊施設も併せて御利用いただくことが紀美野町の利活用につながるという趣旨の下、平成28年9月に「みさとホールを活用したまちづくりプロジェクト会議」が発足しました。

平成29年5月から専属のコーディネーターを雇用し、町内宿泊施設を利用した音楽合宿の誘致や、新たな顧客開拓を進め、みさとホールの利活用が順調に進んでおりました。そんな中、令和2年頃から全国的に新型コロナウイルス感染症が流行し、多くのイベントが中止となりました。昨年5月、ついに感染症での分類が5類に移行されたことにより、イベントや音楽合宿などが再開され、利用者が徐々に増加している状況となってきております。

今後は、高等学校、大学、社会人サークル等の新規顧客の開拓を進め、ホールのさらなる活用を進めてまいります。

以上、みさとホールの利活用のさらなる促進をの答弁とさせていただきます。

続きまして、桐山議員2問目の3番目、ニホンアカガエルを保護していく意思があるのかについて、お答えさせていただきます。

ニホンアカガエルは和歌山県レッドデータブック2022改訂版において絶滅危惧種1類に分類されている両生類です。昨年、紀美野町動木櫛河池下の休耕田の水路などで、地域の方によってニホンアカガエルの成体、卵塊が発見され生息が確認されました。

町教育委員会としては、このような希少動物が生息する紀美野町の自然環境や希少動植物に対する関心を高め、理解を深めるため、学校教育や社会教育において生物多様性や自然環境保全の重要性について啓発していくことは大変重要であると考えております。

なお、現在、ニホンアカガエルを発見した町民の方からニホンアカガエルの町文化財指定申請書が町教育委員会に提出され、町文化財保護審議会において慎重に審議を行っているところでございます。

以上、ニホンアカガエルを保護していく意思があるのかの答弁とさせていただきます。

(教育次長 曲里充司 降壇)

○議長 (美野勝男) 東浦住民課長。

(住民課長 東浦功三 登壇)

○住民課長 (東浦功三) おはようございます。桐山議員の檜河池下太陽光発電関連の御質問にお答えしたいと思います。

私からは1つ目と2つ目の質問についてお答えします。

まず1つ目の御質問ですが、12月議会において桐山議員から御質問があり、事業者と個人との問題であることから、町は直接関与できないものと考えておる旨お答えいたしました。その後、顧問弁護士にも相談をいたしました。弁護士の見解も同様で、事業者と個人の問題であり、町が直接関与すべきことではないとのことでした。

2つ目の御質問、地盤調査の件ですが、昨年11月に事業者により実施された地盤調査の結果に基づく強度計算書、求めておりますが、いまだ提出されておられません。口頭では問題ないとは聞いてはおるんですが、町への強度計算書の提出及び地域への説明を事業者に対し、再三強く指導しておるところでございます。

以上、答弁といたします。

(住民課長 東浦功三 降壇)

○議長 (美野勝男) 中前企画管財課長。

(企画管財課長 中前貴康 登壇)

○企画管財課長 (中前貴康) おはようございます。

続きまして、私のほうから、桐山議員の3番目のかじか荘指定管理者の交代、引継ぎについての御質問にお答えさせていただきます。

美里の湯かじか荘及び毛原オートキャンプ場の指定管理者の指定について、令和5年12月議会で御承認いただいた後、12月に1回、1月に3回、紀美野町現指定管理者及び次期指定管理者の3者で協議を実施してございます。

内容につきましては、施設運営に必要な業務委託に関する事、運営に必要な物品などの運営管理業務に関する事、保健所などに申請する各種申請関係、現在、かじか荘・毛原オートキャンプ場で勤務している従業員の雇用などについて協議を行ってございます。

従業員の雇用につきましては、2月に従業員に対し、次期指定管理者により面接も実

施され、現支配人や現料理長も含めて、施設の運営管理に長年従事された多くの方々が引き続き雇用されると聞いてございます。

また、指定管理者同士による引継ぎも随時実施しており、ホームページやパンフレットなどの広報媒体に関すること、フロントシステム、予約サイトなどの施設使用に係る事務処理及び取扱い、各種保険に関することなどについて引継ぎが行われてございます。

今後は、施設や設備の点検といった維持管理に関することなど、現場において行われる引継ぎや、備品や機械設備などの入替えなど、休館日などを利用し、令和6年4月1日より次期指定管理者による運営が円滑に開始できるよう、期間が限られた中、両者で調整を行いながら、引継ぎを進めていただいているものと認識してございます。

また、今回、初めて指定管理者が変更することによる課題としましては、3月末に利用者に御迷惑をおかけすることとなりますが、物品などの入替え作業、新規従業員の研修や施設の清掃などを行うために、休館日を設ける必要が出てきたことが課題であると認識してございます。残りの期間で指定管理者の交代がスムーズにいくように、引き続き誠意をもって引継ぎを進めてまいりたいと考えておりますので、御理解賜りますようお願いいたします。

以上、簡単ではございますが、答弁とさせていただきます。

(企画管財課長 中前貴康 降壇)

○議長（美野勝男） 以上で、1回目の答弁が終わりました。

これより自席で起立して、質問、答弁をしてください。

3番、桐山尚己議員。

○3番（桐山尚己） まずは、1番目のみさとホールの利活用のさらなる促進をについて再質問いたします。

先ほど教育次長からの答弁にありましたように、みさとホールというのは、関西屈指の音楽系のコンサートホールであるというふうに言われております。それはなぜかという、先ほどの御説明にもありましたけれども、みさとホールの持つ音響効果の高さ、1.7秒という残響時間、これは非常に優れているということ、シューボックス型ということで、シューボックス型というのは、結局は平面的に見ると、長方形になるわけですが、シューボックス型、扇型、アリーナ型、3種類ぐらいあるようですが、その中で最も音響効果の高くなるものであるというふうに言われてるわけです。そこで1.7秒という音響効果を実現してる。

サントリーホールですとか、日本の名立たるホール及びヨーロッパの標準的なホールの残響時間というのは、2.0秒程度というふうに言われております。

地方の一自治体が保有するコンサートホールということを考えれば、1.7秒というのは、非常にすばらしいなというふうに思うのと、さらに先ほどのお話にもありましたけれども、スタインウェイというピアノの名器を備えている。このスタインウェイというのは、125もの特許をこれまで取得してきて、さらには世界のプロのピアニストの98%が愛用しているという、その業界では本当に名器中の名器というふうに捉えられているものであります。そのスタインウェイを保有している。

この音響時間とスタインウェイを絡めると、ピアノの独奏ということを取ってみると、音響時間が長過ぎても実はよくないというふうに言われているそうです。1.6秒ぐらい、これぐらいがちょうどいいんだというふうに言われてるようであります。それを考えますと、みさとホールの1.7秒、そしてスタインウェイというこの名器の組合せというのは、非常にすばらしい。それをもって関西屈指のコンサートホールである、特にクラシック専門のコンサートホールであるというふうに認識されているというふうに思います。

そのすばらしいホールで先日、教育次長もおっしゃいましたが、みさとホールを活用したまちづくりプロジェクト会議による響き感じるコンサート第4回、長らくコロナで中止されておりましたが、ようやく再開されました。

これは私も現地に足を運んで聴かせていただきましたが、大変すばらしいコンサートでありました。会場は満席、そしてその前に一番最初の町長の御挨拶から非常にすばらしいものであった。私がそう感じたのと同時に、会場に足をお運びくださった多くの方もそういうふうに感じられて町長の御挨拶を絶賛されておりました。

さらにそのプログラムの内容ですね、構成、プロフェッショナルな教授陣の方々のパフォーマンス、そして学生の方を中心としたより親しみやすい音楽、さらには地域の合唱団、そして会場も交えたホール全体が一丸となつてつくり上げたコンサートでありました。あの場に居合わせた皆さんが、大きな満足を持ってお帰りになったことは、想像に難くありません。長いコロナ禍を経て、ようやく開催できたその喜びというのはいかばかりかと思えます。

町長ですね、御挨拶が非常にすばらしかった。どのようなことをおっしゃってたか、これは、紀美野の公式なインスタグラムでも発信をされておりましたけれども、紀美野

町は文化豊かな町であり、そして音楽は生きていく上で欠かせない、癒やし、生きる力をくれるものだと、これからももっともっといい音楽をお届けすると。

さらには、大阪芸術大学の教授陣の皆さんからもすばらしい音響のホールで驚いたというお褒めの言葉も頂戴しております。

中でも、指揮を務めておられた伊勢教授については、その後のフェイスブックの投稿です、このようにおっしゃっています。

美里ホールを活用したまちづくりプロジェクト会議、こうした組織があること、また、町長の御挨拶文やプログラム最後の紀美野町へようこそという広告などから、町を上げて文化を大切にしようというスピリットを感じました。今回のコンサートは、地域活性化の一つの成功例だと思いました。さらに、終わってみればあつという間の演奏会に向けて、それを企画段階から本番を成功させるためにどれだけの方が多くの時間を割いて動いてくださっているかということを決して忘れてはいけません。また、それを成功させるために、演奏者と携わる人々が協力し合い、心が一つになる。これも音楽がもたらすすばらしさの一つ。今回は特にこのことを肌で感じることができました。このようにお褒めの言葉を頂戴しています。

今後、もっともっとこのみさとホールを活用していくという、その一つの手法として、音楽合宿、現在は大学を中心に行われているようですけれども、高校、大学、社会人含めて、新規顧客開拓に努めていかれるというお答えでありました。どんどんやっていただきたいと思います。

これは私は、一つ思うんですけれども、文化振興事業ということだけではなくて、先ほど教育次長が答弁でおっしゃってましたけれども、地域に来ていただいて、地域で宿泊をしていただく、そういったことも絡めて、これ経済的効果も得られるわけですね。

さらには、地域のいろんなお店にも足を運んでいただき、お店だけではなくて、生石高原であるとか、みさと天文台であるとか、いろんな紀美野町が誇る場所にもお出かけいただいてというそういった波及効果があるわけですね。

ですから、これは文化振興事業だけではなくて、経済的な観点からも、さらには、これに取り組む人たちの人づくり、そしてコンサートの場で子どもたちが一緒に歌を歌うという機会を与えていただいた、そういった生の教育の場でもあるわけですね。

複合的な観点から、総合的な観点から考えて、このみさとホールを活用していくということは非常に意義のあることであるというふうに考えますが、その辺りについて当局

の見解を再度求めます。

○議長（美野勝男） 曲里教育次長。

○教育次長（曲里充司） 桐山議員の御質問にお答えをさせていただきたいと思
います。

桐山議員おっしゃるように、今回プロジェクト会議の趣旨としましては、もちろん文
化センターのみさとホールを世に知らしめるっていう目的もあるんですが、それととも
に町内の宿泊施設を活用していただくということで、紀美野町の経済の中にお金も同
時に落としていただくと、最近特に傾向としてあるのが、紀美野町の文化センターで事
業をする演者さんの方が割に町内の観光地をちょっとわざわざ空いた時間に訪れてい
ただいて、その紀美野町を感じていただくというような機会も最近ちょっと多くなってき
たかなと個人的には思っております。ですので今後、みさとホールを活用したそのまち
づくりプロジェクトの趣旨に沿って、地域経済への波及を考えたり、今後いろいろ御協
力いただいている皆様方とともに、また紀美野町のこどもたちのためにも貴重な経験が
できるような事業を進めたいと考えております。

以上でございます。

○議長（美野勝男） 3番、桐山尚己議員。

○3番（桐山尚己） こういった総合的な観点から、どんどんとみさとホールを活
用して、まちづくり、活性化、進めていただきたいなというふうに思っております。

早速ですね、この4月19日にもみさとホールを活用したジャズのコンサートも開か
れるということで聞いております。こちらのほうも非常に楽しみにしております。

一つ、課題と言っていいんですかね、これを申し上げます。

去る、去年の11月17日に、和歌山県文化振興財団、和歌山県民文化会館、県文の
推進事業で、みさとホールに来ていただいて、下神野小学校の児童たちに、ミニコンサ
ートを開いてくださったと、大変ありがたい機会で、私も行かせていただいて、コンサ
ートを楽しませていただきました。その際に、この県文の事務局次長という方と御挨拶
申し上げ、お話をする機会が得られました。この次長がおっしゃっていたのは、大変す
ばらしいホールだと、これは、もちろんそういう感想を持たれたのは当然だと思うんで
すが、もう一つ言われたことは、分かりにくい、場所が。国道からみさとホールまでの
間に、ところどころに看板があって、方向を示しているわけですがけれども、そこには、
文化センターと書いてあるんですよ。我々町民は、文化センターみさとホール、すぐ分

かりますけれども、町外、県外から来てくださる方は、分からないんですよ。さらに、その看板もたくさんの看板が並んでる中の一つなんで、見過ごしてしまうんですね。これではもったいない。来ていただく、せっかく遠くから来ていただく方に対しても、親切ではないというふうに思います。この県文の次長がおっしゃったように、この見にくさ、アクセスに難ありと。もちろん、国道が整備されましたから、スピーディに来れることは確かです。ただし分かりにくい。この難点を今後、しっかりと克服していく、これが非常に重要ではないかというふうに思います。

加えて、文化センターみさとホールの前には、何も看板がありません。途中で古ぼけた看板はありますよ、下神野小学校の体育館の横ぐらいいい。あれはあまりにも古ぼけて、かえってないほうがいいんじゃないかと私は思うんですけども。しっかりと表玄関に文化センターみさとホールという看板を掲げて、せっかくのすばらしいホール、すばらしいピアノがある場所ですから、これからもっともっとこれでまちづくりをしようというふうに思っているところですから、ぜひその部分もしっかりと早急に取り組んでいただきたいなというふうに思うわけであります。

この点についていかがでしょうか。

- 議長（美野勝男） 曲里教育次長。
- 教育次長（曲里充司） 桐山議員の御指摘の件につきましては、他の文化センターを利用されている方からもいただいている情報です。改めて、近くの案内看板をいろいろと見せていただいて、おっしゃっていただいている、こちらがプロデュースしようとしている物の紹介しているその場所が全くないということで、ちょっとミスマッチにはなっているとは十分認識はしております。ですので、ちょっと近隣の例も参考にはさせていただきますとは思いますが、みさとホールというのがちゃんと分かるような形で、表示を工夫させていただければと考えております。
- 議長（美野勝男） 3番、桐山尚己議員。
- 3番（桐山尚己） その辺りはしっかりとミスマッチのないように、お越しくださる皆さんにスムーズにみさとホールまで御案内できるように、そういった取組を早急にしていただきたいというふうに思います。

さらにですね、もう一つ申し添えたいのは、みさとホール、スタインウェイのピアノ、こういったハード面では非常に優れているわけですけども、ではソフト面ではどうなのかと。今回のように、大勢の方々、しかも音楽のプロとも言える方々にわざわざ遠く

からお越しいただく。こういった方々を気持ちよく迎え入れ、気持ちよく演奏していただき、気持ちよく帰っていただくためのノウハウと、言ってみればプロジェクトマネジメントですね、プロジェクト管理のノウハウ、この段階でこういうことをして、この段階ではこういうことをして、誰が何をやってという、プロジェクト管理、これをしっかりとやっていく必要があるのではないのかなと。これまでは経験不足ということもあろうかと思うんですけれども、そういったことにあまり力が入ってなかったのではないのかなと。今回も裏方で非常にたくさんの方が苦労されて、汗を流されたというふうに思います。

ぜひですね、こういった取組を回数を重ねることによって、そういったノウハウの部分を積み上げていって、見るほうも、演奏するほうも、どちらも100%、120%ハッピーな状況で帰っていただくと、そういうことを目指していくべきではないかというふうに思いますが、その点について、再度お答えいただければと思います。

○議長（美野勝男） 小川町長。

○町長（小川裕康） それでは、私からも御答弁を申し上げさせていただきます。

桐山議員から、大変お褒めのお言葉もいただきましたが、これは本当にみんなでつくり上げた素晴らしいコンサートであったと私は思っております。

もちろん、大阪芸術大学の4人の教授の先生方をはじめ、ウインド・オーケストラの皆さんの本当に熱意あふれる演奏、そしてまた客席の御来場の方々の真剣な音楽を聴くという姿勢、それに対する思いで応えてくれたんだと思いますが、おっしゃられるように、それを支える大勢のボランティアの方々が一生懸命支えてくれて、皆さんに対するおもてなしの心でもって支えてくれた皆さんの大きな力が1つになって、成功に終わったものだと思います。議員おっしゃってくれたように、本当に素晴らしい音響施設、ピアノも備えているみさとホールであります。

これをもっともっと本当に活用しなければって議員言われる、そのとおりでありまして、我々もそれを一生懸命活用して、特にコロナもあったということで、この期間は残念だったんですが、いわゆる再開されて、もっともっと活用。一番大きなのは今回のそういったコンサート、響き感じるコンサート、4回目なんですけど、これがああいう形で素晴らしいコンサートで終わったということは、我々にとっても大変大きな自信になったものです。紀美野町にこんな立派な施設が、県下一の音楽ホールという施設があるということは、大きな自信になって、それをどのように活用していくかっていうのは本当

に大事なところであります。

議員言われたいろんな課題についても十分認識をしております、もっともっとこれから多くの方々に来ていただく、もちろん音楽合宿にも来ていただいて、泊まっていたら、ぜひお金も落とさせていただき、経済効果も十分考えれる、確保できるということも含めてであります。ですから、このプロジェクトをもっともっと内容を濃くして、会議そのものをもっと充実した会議にしていって、いろんな意見を出し合いながら、どういう形で活用すればもっともっと効果があるんだろうなということもしっかりと考えていきたい。そういうコンサートであったと思います。

特に現場でいらっしゃった方々はみさとホールの状況、雰囲気、いろんなことが皆さん分かってきてると思いますので、大変大変皆さんからいいコンサートだったなっていう、また次も行きたいよっていうような声もたくさんいただいておりますので、ぜひこれを次につなげていきたい、そういう思いでありますので、これからも皆さん御協力もよろしくお願ひしたいと思ひます。

以上です。

○議長（美野勝男） 3番、桐山尚己議員。

○3番（桐山尚己） ぜひそのように、本事業をですね、どんどん推進していただきたいなというふうに思ふわけであります。一つ申し添えるとすれば、ボランティアの方だけで成り立つというのは、やはり非常に厳しい面があります。現在文化センターで勤務してくださってる方々は、会計年度任用職員さんのみというふうに理解しております。正規の職員の方の配置も含めてですね、人的な資源のさらなる投入ということもしっかりと見据えてやっていただければなというふうに思ひます。

ではですね、次に、ずさんな檜河池下太陽光発電計画とその影響について、について再質問いたします。

まず、事業者と住民との間の紛争めいた事態については、顧問弁護士の方からは、町は直接関与できないという回答をいただいたということではありますが、当然法的な観点からいえばそうだと思いますよ。しかしながらですよ、事業者が様々な首をかしげるようなことをやってきて、それを逐一、細かいことを積み上げておかしいでしょ、おかしいでしょというふうに積み上げていったことが、どういうわけか今回の事業者の通知文という、場合によっては告訴するぞというような内容も含まれたような脅しとも取られかねないような内容のものが届いた。このおかしさについて、これ通常の一般的な感覚

から考えていただきたいんですよ。行政は、まずは町民に寄り添っていただかなきゃ困るわけですよ。少なくとも条例の施行規則の中に、5条の第2項に、前項の規定による説明のほか、事業者は近隣住民より疑義等が生じたときは、自らの責任において誠実に対応しなければならないというふうにしっかりと明記してあるわけです。

事業者と住民の間でどのようなやり取りがあったかというのは、それは分かりません。分かりませんが、近隣住民から、特に隣接地主から様々な疑義が生じておかしいんじゃないかという声を上げられていることに対して、あのような通知文が送られてきたということは、これは誠実な対応になるんでしょうか。

この点について、執行部の見解をお聞かせください。

○議長（美野勝男） 東浦住民課長。

○住民課長（東浦功三） 桐山議員の再質問にお答えしたいと思います。

先ほども申しましたとおり、顧問弁護士とも相談をして、直接この件については関与すべきではないという見解で、弁護士のほうから見解をいただいております。

しかしながら、これまでもそうしてきましたけれども、今後についても事業者に対して、地域との良好な関係を構築する努力、それから事業について地域の理解を深める努力を継続して行うよう、指導をしてみたいと考えてます。

以上でございます。

○議長（美野勝男） 3番、桐山尚己議員。

○3番（桐山尚己） 先ほどの住民課長の御答弁の中で、事業者からは、地盤調査の結果に関して、口頭では問題ないというふうに言ってきたけれども、強度計算書、書面での提出というのはまだだと。11月の中旬からも3か月半たってるわけです。にもかかわらず、口ばかりで何も行動を起こしてない。しかも、住民からその疑義が唱えられて、おかしいじゃないかと言ってやったことに対する答えですよ。それがまだ役場にも、執行部のほうにもまともな答えが返ってきてない。住民のほうにも返ってきてない。これはあまりにも誠実さに欠けるんじゃないですか。このあたりについてはどのような指導をされてきたんでしょうか。

○議長（美野勝男） 東浦住民課長。

○住民課長（東浦功三） 桐山議員の再々質問についてですが、地盤調査の件について説明がない、町に対しての強度計算書の提出もないということで、私はこれは誠実ではないのではないかとということで、当初は地盤調査を実施すると言ったときからです

ね、結果については、説明をしてくださいねというふうにずっと指導しておりました。口頭の指導でございますが、今までにも6回指導はしております。問題がないのであれば、提出すべきだということで、こちらからも強く指導しておりますが、まだ対応されてないというところでございます。

以上でございます。

○議長（美野勝男） 3番、桐山尚己議員。

○3番（桐山尚己） 事業者から、当初回覧で回された工程表は、12月末までをめどに工事を終了すると、そういうふうに事業者が言ってくるわけですね。その後、今もう3月になっても何も言ってこない。明らかにおかしい事態ですよ。しっかりとですね、指導を徹底していただきたいというふうに思うわけであります。

次にですね、事業地一帯で生息が確認されたニホンアカガエルへの影響についてでありますけれども、先ほど教育次長の御答弁では、生物多様性であるとか、自然環境の保護の観点からも、これは非常に重要であって、審議委員会の方で慎重に協議していただいているということでありました。ただし、一番最初の私のこの質問の内容にも申し上げましたが、もう既に事業計画地は重機が入って、踏み固められ、恐らく相当数のアカガエルが犠牲になったであろうというふうに、誰の目から見ても分かるような状態になってます。これは和歌山県の絶滅危惧1類に属する生物です。希少生物です。紀美野町の文化財に指定されようがされまいが、保護しなきゃいけないわけですよ。まずは、慎重に協議をして、その結果が出てから行動を起こす。それでも間に合わないんですよ。協議のほうは、審議のほうは審議でやっていただければいいですけれども、それとは別に、教育委員会として、業者に対してしっかりとした申入れを行うべきではありませんか。いかがでしょうか。

○議長（美野勝男） 東浦住民課長。

○住民課長（東浦功三） すいません。教育委員会の質問でしたが、こちらのほうでも指導しておりますので、内容についてお話ししたいと思います。

アカガエルの件で、絶滅危惧種のニホンアカガエルがその一帯で見つかっているという話はお聞きしております。それで、その取扱いというか、事業者に対して、どんなことが言えるのかということ、県の自然環境室のほうにも相談いたしました。

その事業についてですね、このアカガエルにつきましては、アカガエルの生息に影響のないように、配慮していただくようお願いをするぐらいしかできないということであ

りましたのが、私のほうからも、事業者に対して、アカガエルの生息地であると確認できているので、工事の際には配慮していただくようお願いということでお話ししております。

以上です

○議長（美野勝男） 3番、桐山尚己議員。

○3番（桐山尚己） 住民課長のほうから、事業者に対して配慮の申入れをしたということではありますが、事業地の実態を見れば、本当に配慮してくれたのかどうかということは、私は大きな疑問符が頭の中に残りますね。住民課長も現場を御覧になってると思いますけれども、恐らく何の配慮もされてないんじゃないかと、重機が縦横無尽にあちこちをそのまま踏み荒らしたというような、そういう状況になっているようにしか見えません。具体的にどのような配慮をしたのか、これについて何か先方から情報は得られていますか。

○議長（美野勝男） 東浦住民課長。

○住民課長（東浦功三） 具体的な保護の配慮の内容というのは聞いてはおりません。私のほうからも、これはお願いベースではありますが、ニホンアカガエルの生息地となっております、確認できてますので、見つかった場合はその保護に配慮するようというところで、ただ重機が入るなとか、そういうことはちょっと民間事業でありますので、そこまでの規制はできないということを県のほうにも確認できております。見つかった場合は、保護するようというようお願いをしておるということでございます。

以上です。

○議長（美野勝男） 3番、桐山尚己議員。

○3番（桐山尚己） コミュニケーションというのは、双方向のやり取りがないと成立しないんですね。こちらからお願いをして、その結果、お願いされた先方はどういう行動を起こしたのか、これをぜひ確認してください。しっかりとした対応してくれたのかどうか、そうであれば具体的にどういうことをしてくれたのか。それはぜひ確認していただきたいですね。

もし、何の配慮もされてなければ、今後工事が進んでいって、さらにニホンアカガエルの生息地の環境が脅かされる、破壊されるという、さらにはアカガエルの生命そのものが失われるということにもつながってくるんじゃないかと思います。その辺りぜひ御確認いただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

○議長（美野勝男） 東浦住民課長。

○住民課長（東浦功三） まだ工事は完成してませんし、完成した後も、そこで営農がされると聞いております。その中でどういった配慮、どういったことに作業について気をつけるのかってのはちょっと聞いてみたいとは思っております。

以上です。

○議長（美野勝男） 3番、桐山尚己議員。

○3番（桐山尚己） 今後どういうふうなところに配慮するのかという点もそうありますが、これまでどういう点に配慮したのかということも併せてしっかり御確認ください。

ニホンアカガエルというのは、日本固有の種で、近隣種と交雑、交配した場合にはです、その次の世代の雄が、生殖機能をほぼなくしてしまうというようなことも確認されているそうです。

ニホンアカガエルがしっかりと、ある程度の個体数を維持しながら、一定の場所で繁殖を繰り返していくということが極めて大事だということです。他の種と混ざってしまったら、もうどんどんどんどん数は減り、絶えていくことになりかねないんですよ。その辺りもしっかりと認識していただいた上で、御対応いただきたいというふうに思うわけでありまして。

では最後に、かじか荘指定管理者の交代引継ぎについてであります。

先ほど企画官財課長のほうから12月に1回、1月に入ってから3回、役場も入って三者間で様々な協議を繰り返してこられたと。これまでいろんな課題があったと思えますけれども、そういった課題を一つ一つ潰してこられて現在に至っているというふうに思います。先ほどの課長の御答弁からは、まだ残された課題も多少ながらあるものの、3月末日までに全て解決するであろうというような私は印象を受けたわけですが、その辺りもう少し突っ込んでお答えいただければと思いますが、いかがでしょうか。

○議長（美野勝男） 中前企画管財課長。

○企画管財課長（中前貴康） 桐山議員の御質問にお答えさせていただきます。

3月末日まで残りもう1か月を切っております。そういった中で、現在、引継ぎに係る協議をまだ行っている部分がございますので、課題が出てくる可能性はあるかとは思いますが、おおむね現指定管理者の方、それから次期指定管理者の方、それぞれが前向きに協議を行っていただいております。4月1日からの新しい管理者の運営には支障

がないように移行できるものと考えてございます。

以上です。

○議長（美野勝男） 3番、桐山尚己議員。

○3番（桐山尚己） 前回の一般質問です、今回の指定管理者の交代に際して、様々なといった言い過ぎですけれども、幾つかの課題が見えてきたと、このかじか荘の指定管理に関するだけでなく、ほかの指定管理に関しても同様のことが言えるかと思うんですけれども、そういった課題に今後取り組んでいくというお答えであったわけですが、そこについてもう既に具体的に何か動き始めていただいているのかどうか。そこについてお答えいただければと思います。

○議長（美野勝男） 中前企画管財課長。

○企画管財課長（中前貴康） 私のほうから、桐山議員の質問にお答えさせていただきます。

令和5年12月議会において指定管理者の選考でありますとか、指定管理者が変更となった場合の課題ということで、質問をいただいて、そのときに変えられるところは変えていくということでお答えさせていただいたかとは思いますが。そういった中で選考につきましても、現在は、ほかの公共団体の事例でありますとか、そういったものを研究して町に生かしていくように研究している最中でございます。また、指定管理者の変更となるということで、引継ぎが実際行われていく中で、当初想定していなかった今回3月の末に10日間ほど休業でありますとか、そういったことが課題であり、それは利用者の方への迷惑がかかるということは認識してございまして、そういったことを踏まえて、今後、かじか荘だけではなく、ほかの指定管理者のそういった場合も想定して、様々今後対応していきたいというふうに考えてございます。

以上です。

○議長（美野勝男） 3番、桐山尚己議員。

○3番（桐山尚己） 今回のかじか荘の指定管理者交代に当たっては、3月に一定期間の休業日を設けなくてはならなかったと、もうこれはもう致し方のないことだと思います。当然そういうことが発生するのは、これは具体的には見えていなかったかもしれないですけれども、実際そういう引継ぎを行っていくに当たっては、そういう日を設けなければやっていけないということになるわけでありましてね。こういったことがまた具体的にしっかりと見えてきた。この見えてきたことに対して、他の指定管理に関し

ても、どんどんどんどんしっかりと応用していく、そういったことを繰り返して行って、この紀美野町の指定管理制度ですね、これをよりスムーズに行っていていただきたいなというふうに思うわけでありますが、最後に町長いかがでしょうか。

○議長（美野勝男） 小川町長。

○町長（小川裕康） まず引き継ぎの件なんです、町も関わってっていうことも一つありました。今、指定管理をやってくれてる丹生の都の皆さんのかじかに対する思い、新たに4月から指定管理である方の思い、両者の思いも十分我々もよく分かって、両者ともかじか荘に対するしっかりした思いを持ってやっていこうというような気持ちはいただいて、そういった中での引継ぎでありますので、それは町としても関わる部分もありますが、基本的には新旧の指定管理者での引継ぎは、先ほどから課長が答えておりますように、順調に進んでいる。全てっていうことではないんですが、それはきちんと解決されていくものであろうというふうに思っておりますし、今回見えてきた課題の中で選考のやり方もそうですし、変わったときのそのときのことについては、特に当初から定めはありませんでしたので、これを今回のことを一つの教訓として次に生かしていきたいとこのように思っている。指定管理者の皆さんはやはり思いを持ってしっかりとその業務に当たっていただいているということに対して我々は感謝してるということがあります。今後もその方々にしっかりとそうした強い思いを持ってやっていただけるように、町としても進めていきたい。そういった思いであります。

○議長（美野勝男） 3番、桐山尚己議員。

○3番（桐山尚己） 最後にですね、もう一言申し添えますと、現在、日本国中で様々なものの値上がりが進行しております。物価が高くなってきているという状況にございます。人件費もしかりですね。これは、ある意味仕方のないことではありますが、指定管理制度ということで、複数年の契約をするとですね、いろいろなコストが上がった場合でも、何とか身を削って対応せざるを得ないというようなことにもつながってくる可能性も十分あるんじゃないかというふうに思います。そういったことも今後見据えながら、指定管理制度及び契約の在り方ということについても、検討していただきたいなというふうに思います。

以上で、私の一般質問を終わります。

○議長（美野勝男） 以上で、桐山尚己議員の質問を終了いたします。

暫時休憩いたします。

休 憩

(午前10時07分)

再 開

○議長（美野勝男） 休憩前に引き続き会議を開きます。

(午前10時20分)

○議長（美野勝男） 続いて、11番、美濃良和議員。

(11番 美濃良和 登壇)

○11番（美濃良和） おはようございます。

議長さんのお許しを得て、一般質問をさせていただきます。

まず初めに、1月の能登の災害で被災された皆様に心からお悔やみを申し上げるとともに、一日も早い復旧復興がされるように、心からお祈り申し上げたいと思います。

それでは質問に入ります。昨年の河川災害の対策についてお聞きいたします。

昨年6月の水害によって多くの被害が出ましたが、その対策について県に今までにない広い視点で要請すると、そういうふうな答弁がございました。年も変わり、災害の起こる時期が近づきつつあります。町はこの間、どのように検討されてきたのか、また県への要請など対策についてはどうかお聞きしたいと思います。

次に、デマンド乗合タクシーについてお聞きいたします。

以前、総務文教常任委員会から当局へデマンド乗合タクシーについて要望し、それに対し、現在のタクシー・バス助成券の制度化が開始されたと思います。6年度から6,000円増額されます。しかしですね、東西に長い紀美野町にとって、あるいは利用する目的、例えば、この五色台まではこのバスはいかないわけでありまして、そういう点で、タクシーというふうになってまいりますと、この1万8,000円になりますけれども、非常に少ない金額であると思います。そのことから、町内ならどこまでも同じ料金というデマンド乗合タクシーが必要であるというふうに思われます。やはりですね、長いところの町でありますから、偏った、そういう施設が、偏っているわけでありましてね。そういう点でですね、多くの皆さん方が、そういう点を等しく利用できるように、そういうふうな観点からですね、実施するべきはこのデマンド乗合タクシーではないかというふうに考えますが、見解をお聞きしたいと思います。

次に、かじか荘の整備についてお聞きいたします。

かじか荘の風呂のパイプが損傷していたということを聞きました。当然、湯が不足することになりますから、それが経費増につながると、そういうふうになるわけでありませぬ。指定管理でありますから、建物については、町が修理とか、そういうことをしなければならぬものであります。その建物の状態についてです、把握はどうされているのかお聞きしたいと思います。

4点目に、体育館リニューアルについてお聞きいたします。

さきに提出されました資料によれば、令和6年度からです、9年度までに5年度から計画が準備がされてたようでありますけれども、それでです、14億円の予算が使われることになっているように聞きます。現在、スポーツ人口がだんだん減ってきています。御案内のとおり、昔はです、旧村単位に争って若い方たちが町へ要望してグラウンドを造ってほしい、さらにそのグラウンドに照明施設をつけて、夜でもスポーツができるようにしてもらいたい、そういうふうなことがされました。それが現在では、このどんとその撤去されていったりして、そのグラウンドが減ってきています。そういうふうなことから、スポーツ人口というのが減ってるというふうに見られるわけでございますけれども、この体育館についても、要するに町内の方々が利用されるそういうふうな体育館でいいのではないかと、そういうふうなことから、この体育館リニューアルについてです、再考が必要ではないかというふうに考えますが、見解をお聞きしたいと思います。

(11番 美濃良和 降壇)

○議長（美野勝男） それでは、美濃良和議員の質問に対する当局の答弁を求めます。

11番、美濃良和議員。

○11番（美濃良和） 今、4点質問いたしましたけれども、順番を4番目の、次回以降、1番目に持っていきたいと思いますのでよろしくお願ひしたいと思います。

○議長（美野勝男） 米田建設課長。

(建設課長 米田和弘 登壇)

○建設課長（米田和弘） それでは、美濃議員御質問1番目、昨年の河川災害の対策についてお答えさせていただきます。

これから春を迎え、梅雨から台風シーズンまで豪雨などによる新たな災害が生じる時期が近づきつつある中、昨年6月2日発生の大雨洪水による被害などに対し、どのよう

に検討し、県への要請も含め、対策を進めていくのかという御質問かと存じます。

現在、町道や町管理河川については、一刻も早く災害復旧工事を進めている最中であり、県管理河川である貴志川や真国川につきましても、同様の状態となっておりますが、災害の件数が膨大なため、繰越事業となるものも多い見込みとなっております。

まずは、二次災害等を防止する観点からも、それらを早期に完成させることが急務であると考えております。

なお、貴志川や真国川などの河川災害の対策については、県の河川整備計画とは別に、県より先行して河川内の岩掘削や浚渫を行っていただいております。今年度の河川浚渫等については、福田地区、小西地区、西野・釜滝地区、菘垣内地区の4か所で計画しているとのことでございます。小西地区は完了、西野・釜滝地区は施工中、残りは今後順次施工予定と伺っております。

また、1月23日には、県議会防災国土強靱化対策特別委員会の委員9名と、海南市海草郡選挙区選出議員の2名、合わせて11名の県議会議員の皆さんが、西野・釜滝地区の菘原橋付近の現地調査を行いました。

その際、当時の状況を改めて説明し、現状を確認していただくことで、河川整備だけでなく、県道改修についてもしっかりと意見交換等を行いました。併せて、県とも確認体制や連携連絡体制の強化などを改めて確認させていただいたところでございます。

町としましても、護岸整備等公共施設の維持管理等に対し、引き続き精いっぱい努力を行ってまいります。住民の皆様におかれましても、異常気象に対する災害の備えと、危機管理を引き続き行っていただきますよう、よろしくお願いいたします。

県などに対しましても、異常気象が予測される場合は、今まで以上に連絡を密にし、引き続き継続的な浚渫や、改修等の意見や、河川改修だけでなく、県道改修なども含め、強く要望を行い、しっかりと協議をしながら、対策に取り組んでまいりたいと考えております。

以上、答弁とさせていただきます。よろしくお願いいたします。

(建設課長 米田和弘 降壇)

○議長 (美野勝男)

坂総務課長

(総務課長 坂 詳吾 登壇)

○総務課長 (坂 詳吾)

それでは、私のほうから美濃良和議員の2番目のデマンド乗合タクシーについての御質問にお答えいたします。

町の交通施策の経緯といたしましては、コミュニティバスを基幹として、路線見直しやダイヤ改正、デマンド方式等、様々な対策を講じて、地域の実情に対応してまいりました。

美濃議員御提案のデマンド乗合タクシーは、複数人でタクシーを利用し、1人当たりの運賃を安く抑える乗合タクシーのことと推測しますが、これと似た事例といたしまして、コミュニティバスを平成29年度に三尾川・上ヶ井・箕六線、永谷線及び真国・志賀野線の一部区間において、デマンド型の制度を導入し、運行を実施いたしました。結果、利用者が極端に少ないことから取りやめた経緯がございます。

こういった対策を重ねてきた中で、令和2年度から、高齢者等の生活行動の範囲拡大と社会参加の促進を図ることを目的とした紀美野町高齢者等外出支援タクシーバス助成券事業を実施しております。

この助成額につきましては現在1人当たり1万2,000円としておりますが、令和6年度当初予算案で提案させていただいておりますように6,000円増額をし、1人当たり1万8,000円の助成額で提案させていただいております。これにより住民の方々の外出支援の一助となることを願うとともに、今後この助成額を増額し続けることは、財政面からも非常に困難であると考えております。

これからは、コミュニティバスの在り方を見直すこととともに、持続可能な公共交通ネットワークの再構築をデザインし、早急に進めていかなければならないと認識しております。

利用者ニーズはもとより、専門家や交通事業関係者の御意見を伺いながら、地域の実情等を様々な要因を考慮し、紀美野町に最適な方式を慎重かつ迅速に検討してまいりますので、御理解賜りますようよろしくお願いいたします。

以上、デマンド乗合タクシーについての答弁とさせていただきます。

(総務課長 坂 詳吾 降壇)

○議長(美野勝男) 中前企画管財課長。

(企画管財課長 中前貴康 登壇)

○企画管財課長(中前貴康) 私のほうから、美濃議員の3番目のかじか荘の整備についての御質問にお答えさせていただきます。

美里の湯かじか荘・毛原オートキャンプ場の建物の修繕についての御質問だと思いますが、修繕等については、指定管理者を募集する際、また指定管理者が決定した際に、

指定管理に関する協定書で明示してございます。

協定書内には、指定管理者に実施していただく本業務の範囲を定めており、そこには施設及び設備の維持管理に関する業務と記載しております。指定管理者には、施設利用者へ御迷惑をおかけしないよう、常日頃から施設や設備の維持管理をしていただくとともに、大規模な修繕が必要となった場合には、町へ報告をしていただき、予算の範囲内で協議しながら修繕を実施しているところでございます。

今回、令和4年12月より、露天風呂において漏水の発生が判明し、その後、修繕を行うために業者に依頼し様々な調査を行いました。箇所の特定をすることができませんでした。

また、ほかの業者にも相談などを行いました。修繕を行う本年までの期間を要することとなり、指定管理者においては、ガス代や人件費などの経費の負担につながったと認識してございます。

過日、ようやく露天風呂へつながっている送水配管が地中で損傷していたことが判明し、修繕を行ったところでございます。

今後も修繕などに対しては基本的には指定管理者において修繕していただき、躯体に関するような大規模な修繕などについては、指定管理者と協議しながら、施設の維持管理に努めてまいりたいと考えておりますので、御理解賜りますようお願いいたします。

以上、簡単ではございますが、かじか荘の整備についての答弁とさせていただきます。

(企画管財課長 中前貴康 降壇)

○議長（美野勝男） 曲里教育次長。

(教育次長 曲里充司 登壇)

○教育次長（曲里充司） 美濃議員の4問目の体育館リニューアルについてお答えさせていただきます。

スポーツ公園体育館は、雨漏りするなどの老朽化が進み、建て替えが必要な状況となってきました。そこで今回、敷地内の修繕なども含めた全体的事業としてスポーツ公園リニューアル事業を進めることとなりました。また、町内には武道館、志賀野体育館、農村総合センターといったスポーツ施設が点在し、スポーツやレクリエーション活動が行われていますが、いずれも老朽化が進んでいる状況です。

議員御指摘の町内スポーツ人口は減少傾向にあり、平成21年度の社会体育登録団体

の人数は757人であったのですが、令和4年度では473人となり、13年間で約40%の減少となっております。

それらの現状を踏まえ、課題解決のため、今年度、スポーツ公園リニューアル事業基本構想基本計画策定支援業務を民間企業に委託し、基本構想と基本計画の策定を行ってきたところです。

近年の建設コストの急騰により、今と同程度の体育館を建設した場合、約19億円程度の建設費が必要と聞いております。

今回、新たな価値を付加し、施設の魅力化を図り、建設コストの圧縮や工期の短縮など、総合的に検討した結果、屋内競技場面積を増床し、かつ建設事業費の低減にもつながるテント膜構造の体育館を建設する案としております。

また、既存施設の機能を維持することで、今までの利用者数を確保でき、そこに新たに飲食機能と宿泊機能を導入することで、今まで以上の利用者数の増加が図れ、利用対象者の拡大にもつながると考えております。

今まで以上に使い勝手のよい、気軽に訪れたいくなる、にぎわい、魅力ある施設として整備していくものです。

以上、体育館リニューアルについての答弁とさせていただきます。

(教育次長 曲里充司 降壇)

○議長（美野勝男） 以上で、1回目の答弁が終わりました。

これより自席で起立して、質問、答弁をしてください。

11番、美濃良和議員。

○11番（美濃良和） 先ほどお願いしたとおり、体育館リニューアルについて先にお聞きしたいと思います。

この件につきましては、今、答弁いただいたんですけども、教育委員会でもこのつかんでられるように、利用する方々が大きく減ってきているというような状況であるんですね。ですから、その増やすことはいいんですけども、さきに頂いたこの資料ですね、リニューアル事業のこれで見てもみたら、増やすのは町内よりもよそから来てもらうんだと、こういうふうな内容で増やしていきたいというそういうふうなことが書かれているように思うんですね。それであってですね、ですからその中に宿泊をする施設、また飲食を提供する施設、こういうものも入ってきてあるわけでございますけれども、そういうのが本当に必要なんですか。やはり今ある町内の方々の利用ということを優先

していくべきではないでしょうか。

それからもう一点は、財政面ですね。言われましたけれども19億、現状のまま造れば19億、この事業は14億ということでございますけれども、今、言われたテント膜方式での体育館だけやったらどうなりますか。

○議長（美野勝男） 曲里教育次長。

○教育次長（曲里充司） 美濃議員の質問にお答えさせていただきます。

近年のスポーツ人口、特にスポーツの施設の利用人口は、少子高齢化の影響で、減少傾向になっております。議員おっしゃっていただくように、体育館の建て替えで考えた場合、体育館が新しく建て替えただけで、今の施設の機能の維持だけになってしまいます。恐らく近い将来、維持するだけでもまならないような形になるのかなということは容易に今の段階でも予測はできるところです。近隣のスポーツ施設もいろいろ視察をさせていただいて、いろんな情報も収集に努めてきました。施設を魅力化して、運営も持続可能なものにするには、どんなような手段、機能が必要かということで、検討はしてきたところです。

今回、スポーツ公園にももとは運動利用者、運動利用を目的とするだけであったのを、今回は、例えば保護者の方の居場所をつくったりとか、休憩できる場所、それからもちろん利用者の食事を提供できるようなこと、それが施設のにぎわいにもつながるんじゃないかということで、本来、スポーツ公園という名称で、公園機能の強化にもなるのではないかとということで、今回、そのような選択をさせていただいているところです。

現在も町内の登録団体はありますが、町内だけではなかなか活動を維持することは難しいということで、町外の方もメンバーに入らせていただいて、利用されているという実態もあります。

あと、事業費のところですが、現在の体育館だけを取り壊して、天膜構造に転換するという想定でいきますと、恐らく3億円弱の費用がかかるものかなと想定はしております。

以上です。

○議長（美野勝男） 11番、美濃良和議員。

○11番（美濃良和） いろいろと研究されて来られたということに対して、それは評価したいと思います。しかし、来年度予算を見てみましたら、例えば、財政調整基金、令和5年度の末現在で11億4,679万1,000円ですか、それが6年度の末に

は、3億4,485万4,000円と8億余りの基金が減額になる計画になっていますよね。それがどのように使われるのか、これから予算でお聞きしていくところでございますけれども、そういう柔軟な運営するための予算が大きく減額してきてる。そしてまた、起債についても、これもお聞きせんと分らんのですけれども、例えば、この体育館なども含む一般単独事業債は、10億余りまた借っていかなきゃならんことに、これは体育館だけじゃないですよ、というふうな形もあったりして、大変厳しくなってくるのが予想されます。それに対して、これ指定管理者でしょ、指定管理ですよ。

○議長（美野勝男） 曲里教育次長。

○教育次長（曲里充司） すみません。美濃議員、今の質問は何に対して、質問をされてるんですか。

○11番（美濃良和） 財政的な面と運営について聞きました。

○教育次長（曲里充司） すみません。財政的な面につきますと、いろいろ検討を重ねてきたところです。施工費用、ごく一般的に体育館、通常施工すると、建設コストが大体19億かかると聞いております。体育館だけの建て替えでも19億かかるということで、もうちょっと建設コストを圧縮できないかということで、いろんな検討を重ねた結果、今回のテント膜構造の体育館で施工費用を抑えた上で、床の有効面積を最大限広げられるということでの選択肢を取ったわけです。

また、もともと全体事業費、今後14億ということで、活用できる補助金であったり、地方債を最大限活用して、今のところの実質の負担額では3億8,000万、14億の事業に対して、実質負担額が3億8,500万ぐらいの想定をして、できる限りの財政負担の軽減には努めているところです。

今回、スポーツ公園リニューアル後の管理につきましては、指定管理ということを検討しております。

○議長（美野勝男） 11番、美濃良和議員。

○11番（美濃良和） 3億余りで体育館だけだったら建つんだと、そういうことでありましたよね。19億っていうのはあくまでも現在のやり方じゃなくって、ですから、このリニューアルの方式70億円、それから体育館を建てるんだったら19億っていうことはこれは話にならんのですね。あくまでもあのテント膜方式でやったというふうなことを想定するならば、3億円になるんか14億でやるんかということの比較になるかというふうに思うんですね。せっかくいろいろと検討されてきている中このように

申すの、大変失礼であるかというふうに思いますけれども、しかしですね、今、財政的にも先ほど言ったように、厳しくなっている状況の中で、他の土地の人を来てもらうための事業、しかも指定管理やるんでしょ。指定管理というのは、どうなるのか分かりませんが、もう既に決まってるのではないですか。DBO方式っていうのはこの資料から見たら。

○議長（美野勝男） 曲里教育次長。

○教育次長（曲里充司） まず、美濃議員の1問目の町外の利用ということで、もちろん現在の利用状況でいきますと、町内の方だけでの利用というのは、なかなか施設の維持というのでは今後、非常に難しくなることが予想されております。ですので、町内の利用の方が有効に利用できつつ、なおかつその空きを町外の方に利用していただいて、施設のにぎわいを創出していくということで考えているところです。

あと、指定管理者が決まっているのかということですが、指定管理者、もちろん令和6年度の予算の5か月後にはなりますが、公募を行って決めていくという形にはなると思います。

○議長（美野勝男） 11番、美濃良和議員。

○11番（美濃良和） この資料を見せていただいたら、事業手法っていうところで、これは何ページですか、3ページ左側にあるように、事業手法、DBO方式一括発注ということで、設計、建設、それから運営とこういうふうに一括でってことになってるように書いてますね。これどうですか。

○議長（美野勝男） 曲里教育次長。

○教育次長（曲里充司） 今回新たに事業手法として、DBO、デザイン・ビルド・オペレーションを一体で業者の選定を行うということを試みようとしております。

これもそれぞれ今までのやり方でいきますとどうしても町の立場だけを考えた建物の建設になりがちで、結果、供用開始されて運営は始まるんですけど、なかなかその施設の盛り上がりには欠けるとかっていうようなことも他市町村では多く見受けられていたところです。その中で、オペレーション、管理する事業者の意見も参考にしながら、設計の段階で入っていただいて、運営しやすいにぎわいのある施設を造っていくということで、今回、DBO方式を導入させていただくということで御説明はさせていただきました。

○議長（美野勝男） 11番、美濃良和議員。

○11番（美濃良和） 私、このつつじが丘っていうところ見てきました。かなり大きな施設ですよ。こんながうちだけではなく造られていくのではないかというふうに思いますけれども。それで客っていうのおかしいですけど、利用者を取り合いということになっても来る可能性がある、そういうふうなことで考えた場合、指定管理をしていった場合には、当然、指定管理料、町が毎年お金を出さなきゃならないというふうなこともつながって、なかなかこの負担が大変になってくるのではないですか。

ここの事業費、先ほどもちょっと言いましたけれども、合計国庫からももらいますけれども、地方債が6億3,000万、借金をせなあかんわけでありませぬ。一般財源も少ないといえば少ないですけど7,000万ですか。大変厳しいこれから町の運営をしていかなきゃならない。先ほどのデマンドのところのお話でも、予算とお金の問題があるようなことも答弁されておりましたけれども、そういうふうな点から考えて、町民の皆さん方の合意が得られるのかどうか、町の運営、考え方だけではないかというふうに思いますけれども、その辺はどうでしょうか。

○議長（美野勝男） 曲里教育次長。

○教育次長（曲里充司） 今回の点でいきますと、もちろん町民の利用をされる方での満足度の向上であったり、今後、施設の維持費をいかに抑えながら、今までどおり施設を利用していただけるのかという観点の下で、選んだ手法、事業内容であると考えております。

あと、地方債にしましても、トータルでいくと14億のうち6億3,000万ということで借金にあることには変わりはないと思います。と思いますが、できるだけ交付税算入のあるものを探した結果、実質6億3,000万は地方債になりますが、その半分が交付税措置されるということで、できるだけ有利な財源を探してきた結果がこの結果だと考えております。

○議長（美野勝男） 11番、美濃良和議員。

○11番（美濃良和） いろいろと御検討されてるんだと思いますけれども、しかし、先ほどからのやり取りのとおりですね、起債6億3,000万、町の一般財源から7,000万そういうふうなお金がかけて、またそれに運営のための指定管理者にお支払いする指定管理料っていうのも入ってくると、そういうふうなことを考えれば、ある程度コストも考え、運営等のコストも考えていかなければ、後で町民の皆さん方に納得してもらえるのかどうか、指定管理者というのは、言うたら失礼でございますけれど

も、やっててあかんかったら、もう指定管理の期間さえ過ぎれば、手を上げればそれまでで済むわけですけども、町はそうはいかん。最後まで、その大きな施設の管理を見ていかなきゃならんし、修繕もそのところに入ってくるかというふうに思います。そういうふうに考えて、それでいいのかどうか、まずこのところで確かめることが大事であると思います。もう一度そのことについてお聞きしたいと思います。

○議長（美野勝男） 曲里教育次長。

○教育次長（曲里充司） 美濃議員の御質問にお答えします。もちろん現状の体育館だけを壊して同じものを造るということでの検討は行いましたが、とても今後その状態ではなり行かないことはもう容易に予想はされております。ですので、できるだけ運営コストも考えながら、今の利用者にとっても満足いくような施設であって、かつ今以上の施設の利用率を創出する方法が何かということで、現在の結果には至っているところですが、もちろん財政的な負担にはなりますので、最大限の有利な財源を見つけての今の検討結果になっておりますので、御理解いただきたいと思っております。

○議長（美野勝男） 11番、美濃良和議員。

○11番（美濃良和） これ本当に、これでええんかなと、動き始めたらもう止まらんわけですよ。そのようにですね、14億、令和5年度の分も含めればそれ以上になってくるかというふうに思うんですけども、体育館だけということにすることで、これは3億余りでできる。今の事業は14億、しかも体育館だけならば、大体電気代とそれから管理といってもほとんど大きな金額にならんというふうに思います。それに対して14億の今度の事業は、宿泊もありますから、施設のこともありますが、あと様々な電気代から始まってですね、あとの維持管理が負担になってくる。それを町は見ていかなきゃならんということについてはこれはまさに町民の皆さん方にすぐ納得してもらえるかどうか、もう一回そのことについてやるべきであると、町長どうですか。

○議長（美野勝男） 小川町長。

○町長（小川裕康） 美濃議員からいろいろ御質問いただいて、これはこれで大変ありがたいなと思っております。まずこのスポーツ公園リニューアル構想というこれ考えたときに、今の現有のスポーツ公園を利用されてる方っていうのは、本当にもうスポーツに特化した方だけしか行かれてないような感じですね。ですから、スポーツに関係ないといったらおかしいですが、方々はきっとそこにはあんまり足を運んでられないんじゃないかなというふうに私たちは理解しております。スポーツ公園っていう名で

ありますから、もっと町民の方々がそこを利用して、そこで楽しんでもらえるようなそういったものを、そういったスペースにあの地域をしていきたいなというのは強い思いがありました。

ただ現有の体育館が大変昭和56年ですから、40年ぐらいたって、もう老朽化してる、雨漏りもしていると。これは修繕もやってきましたけれども、とてもとても今の状態ではやっていけない、建て替えなければいけないということが大きな一つがありましたし、国体のときに造ったホッケーコート的人工芝もやり替えなければいけない時期に来てる。それも含めて全体的な修繕も必要な時期に来てているということがありました。その中で全体的なりリニューアルということが必要ではないかっていうそういったことで強い思いを持ちました。

現有の体育館を建て替えるだけであれば、先ほどから次長が申したように、それでも19億円もかかるという試算もある中で、そんだけかけてするものか、そしたらもっと費用を抑えてできないかなってことで今のこの計画が出来上がってくる中で、テント膜の体育館だけを造ったら、3億と言ってましたが、その中には現有の解体とか入ってませんので、解体とかを入れればそれは7億ぐらいになるわけでありまして。その中には、ホッケーコートの修繕とか、全体の修繕とは全く入ってない状態での試算でありますので、それをすることで、スポーツ公園一帯がもっともっと皆さんに利用されるんかっていうことを強く考えました。

費用も要りますが、後の維持管理とかも含めて試算してるっていうのは、このDBO方式っていうのは、最後のOというのはオペレートなので管理運営です。ですからそんな費用もひっくるめて、デザインをして、後の管理運営を考えながらどうした施設にしていけば管理運営がスムーズにいくかっていうことを十分考えた上でのデザイン設計になっていくものでありますので、デザイン、設計ですね、建設、管理運営をDBOということで、一括した形で今後発注していきたいなという思いもあります。

それから、議員心配させていただいている財政的なことも十分それは協議いたしました。一つにこの事業だけでいえば14億ということで、これ2分の1の国費を頂ける。そして残りは90%の起債、この起債についても、半分が交付税算入で返ってくるということで、この14億円の事業の財源構成も十分しっかり協議しておりましたし、もう一つ議員心配させていただいてる今の財調のことももちろんそのとおりであります。特に、今年度6年度については、消防庁舎も昨年からの建設が始まって、6年度でしたらもう

完成してしまいます。6年度に充当している消防庁舎に対する予算は6億数千万ということは、これは6年度に完成しますし、もう一つ中学校の統合見据えたそれに関する予算、そして給食センターについてもこれは6年度で完結する事業でありますので、そういった形で完結終了していくものと、今後必要な費用等も十分協議した上で、今後の町全体の財政運営も当然考慮しながら、この事業を今、提案しているところでありますので、意見をたくさんいただいているというのは本当にありがたいことでもありますけれども、十分慎重に協議して今提案しているところであります。

私からは以上であります。よろしく申し上げます。

- 議長（美野勝男） 11番、美濃良和議員。
- 11番（美濃良和） この14億の中には、体育館の撤去の費用も入ってるんですか。
- 議長（美野勝男） 小川町長。
- 町長（小川裕康） せんだっての全員協議会で皆様に御提示させていただいた資料の中にもございますが、全ての費用をひっくるめてってということになる。現有の体育館を撤去します。そこについては駐車場スペースとして整備するっていう費用もありますし、あの一帯スポーツ公園全部を1回リニューアルしましょうということで、全ての経費はそこへ盛り込まれております。一番奥にあります、もともとゲートボール場が4面あったんですが、今の現状の使用とかいろんなことを考えれば、それを半分にして半分を駐車スペースにすることによって、ゲートボール、ペタンクを利用されている方々の駐車スペースもそこで確保できますし、全体的な駐車場の置ける台数も増えるということで、全てを含んだものであります。

以上です。

- 議長（美野勝男） 11番、美濃良和議員。
- 11番（美濃良和） いずれにしても、やっぱり町民の皆さん方の理解を得られるかどうか、ここがまず前提だと思うんですよ。その辺についてはどうなのかお聞きしたいと思います。
- 議長（美野勝男） 曲里教育次長。
- 教育次長（曲里充司） 美濃議員の御質問にお答えしたいと思います。

このスポーツ公園のリニューアル事業に関しましては、基本構想、基本計画、基本構想のときでも皆様方の意見をお伺いしながら進めてきました。現在、町のホームページ

のほうでも、基本計画に対しての御意見をお伺いしているということでの、現在ホームページでの掲載を続けております。

以上でございます。

- 議長（美野勝男） 11番、美濃良和議員。
- 11番（美濃良和） 何にしても、町長言われた、撤去の解体撤去というものを含めて7億円で済むということでありましたけれども、3億円ですよ、今言われた3億余りで建つんだと、その解体が4億円かかるわけですか。
- 議長（美野勝男） 曲里教育次長。
- 教育次長（曲里充司） 4億円の中には、解体撤去をはじめ、スポーツ公園の人工芝の張り替えの費用も入っております。
- 議長（美野勝男） 11番、美濃良和議員。
- 11番（美濃良和） いずれにしても、後の指定管理いうものも要ります。今、張り替え等にはこの中に入ってますから、恐らく、その撤去だけではないと。大体今までの実績からいっても、1億余りで学校なんかも撤去されてるかというふうに思うんですけれども、もちろん、そのための基金もつくってますよね。それから指定管理については、どれぐらいを考えてられるんですか。金額。
- 議長（美野勝男） 曲里教育次長。
- 教育次長（曲里充司） 現在のところ、ちょっと申し上げるような金額にはなっていないところですが、現状のスポーツ公園の歳入、歳出の差引き額が基準にはなってくるとは思っております。
- 議長（美野勝男） 11番、美濃良和議員。
- 11番（美濃良和） 宿泊とかそういうのも今度はやられるわけでしょ。宿泊、それから飲食の提供。
- 議長（美野勝男） 曲里教育次長。
- 教育次長（曲里充司） はい。そちらのメニューにしましては、指定管理者の自主事業としての扱いにする予定にはなっておりますので、基本的には指定管理につきましては、施設の管理に係る分を指定管理するということにはなります。
- 議長（美野勝男） 11番、美濃良和議員。
- 11番（美濃良和） ちょっと休憩。
- 議長（美野勝男） 暫時休憩いたします。

休 憩

(午前 11 時 09 分)

再 開

○議長（美野勝男） 休憩前に引き続き会議を開きます。

(午前 11 時 11 分)

○議長（美野勝男） 11 番、美濃良和議員。

○11 番（美濃良和） 今のお話を聞きますと、施設を造られて、その施設を貸し出して、言い方はどうか知りませんが、貸し出して、それを借りた人がその中で一定の指定管理料をもらいながら、自分がその宿泊とか、飲食でもうけを出すと、そういうふうな考え方もできるわけですね。

○議長（美野勝男） 曲里教育次長。

○教育次長（曲里充司） 仕組みとしては、そのような考え方もあります。

○議長（美野勝男） 11 番、美濃良和議員。

○11 番（美濃良和） 実際そうでしたら、うまくいけばいいですけども、もしさっき言いましたように、つつじが丘でも立派な、大変大きなものでできてますし、あちこちにできてる。その中で、子どもたちも減ってきたり、スポーツ人口が減ってる中で、うまくいかなかった場合に、その指定管理を受けた人がやめたというふうに手を上げることもできるわけで、そうなったら、やはり町はこの施設についての建設のための起債とか、そういうものを払っていかなくちゃならない。またかなり立派なもんですから、年間のランニングコストも相当要るかと思えますけれども、それは全て町が負わなくちゃならないということにつながっていくわけですね。

○議長（美野勝男） 小川町長。

○町長（小川裕康） お答えをさせていただきます。

先ほどから御説明、DBO という一つの方式なんですが、これをプロポーザルで提案いただくということが、この6年度のスタートですかね、大きなことになります。ですから、そこで、いろんなところから提案をいただくことで、初めてこのDBO方式というのは進んでいくかなと思っておりますので、議員もそらもちろん心配されるのですが、我々としても、そうした企業、そこでやっぴいこうということで、手を挙げていただけるような話は今、あるやにも聞いてますので、それは、これから進めていきたいなとい

うところ。

それと、今のスポーツ公園の体育館だけやり替える、それと、人工芝の張り替えだけするとすれば、修繕になるかも分かりませんが、それであれば、新たなにぎわいの場にはなっていないのではないかと。あの一带を町のスポーツ公園という位置づけをしますので、もっともっと皆さんに来てもらって、そこで例えば、そういう飲食物があるのであれば、町外お茶しに行かんでも、あそこでお茶しに行きましょうとか、町民のもっともって活用の場所となって、にぎわいをそこで生み出されるようなものを目指していきたいなという思いがある。というのは、やはり、最初の御答弁で古くなってきてる例えばスポーツ施設というのは、それを残していけるかどうかである、一つがある。この場所へ集約化するということも一つ必要ではないかなという思いもありますので、いろんな点在しているところの施設がそこで維持管理をしてる、しかしながら、どんどん利用が細ってきてる。今、交通事情もようになってますので、こういった一つの町のシンボルになるようなスポーツ公園ができれば、そこをもっともって活用してもらえないかというような思いもあります。そして、新たにスポーツに関係ない人たちでも、そこへ行って、そこでゆっくりしよう。町民の居場所になるような思いを強く持っておりますので、それも併せてよろしくお願ひしたいと思ひます。

○議長（美野勝男） 11番、美濃良和議員。

○11番（美濃良和） 先ほど答弁の中で、体育館は現在3つあると言われましたかね、現在あると。そういうことの一つの、それぞれ老朽化してることはそういうことであるか分かりません。ここは、体育、教育の面だけじゃなくて、災害が起こったときの避難のそういう場所にもなってるかというふうに思ひます。そういうことでは必要であることは当然なんです、やり方として、先ほどから言ってるように、現在のままの建物じゃなくて、安価なテント膜方式だと、当然これは、耐用年数も短いというふうにたしかあったように思ひます。そういうふうな点から考えて、やはり何かちょっと違和感があるんですよ。そういうふうに、やり方をもっと町民の皆さん方なども、しかもあまりコストをかけない方向がこれからの点で大変厳しくなってくる中で、また、高齢者の方も増えてくる、子どもたちが少なくなってくるからどういふふうに増やしていくかとか、考えていった場合に、このところも十分にコストも考えていかなきゃならんというふうに思ひます。先ほどから言ってるように、もう一度お聞きしますけれども、町民の皆様方に聞くと、広く町民の皆様方に聞くということについてはどうでしょ

うか。

○議長（美野勝男） 東中教育長。

○教育長（東中啓吉） 美濃議員の御質問にお答えします。

広く町民の意見を聞いたかどうかというお話でありますけども、近いうちに、この体育館を利用されている団体の皆さんに、こういう新しいリニューアルのことについての説明をさせていただくということを今、予定しています。それから、決して町外の人らだけを私たちが目にして、こういう計画を立ててるんじゃないかと、やっぱり、町民の方が来て、ああいいなあ、満足して、有意義に使っていただくという施設にやっぱりしていきたいという思いがありますので、きっと分かっていただけるんじゃないかなと思っています。

以上です。

○11番（美濃良和） 聞くってということについてはどうなんですか。

声を聞いていただくということについてはどうなんですか。

○教育長（東中啓吉） 説明会をするときにももちろん声は聞かせていただきますし、ホームページにもこういった内容載せて、町民からの意見も聞いていきたいと、そういうふうに思っています。

○議長（美野勝男） 11番、美濃良和議員。

○11番（美濃良和） 本当に大事な予算を、やっぱり町民の予算我々が預かって運営しているという観点からですね、町民の皆さん方の合意の下にですね、進めていくということが大事でございますので、十分にその町民の皆さんの声を聞くための努力をしてもらいたいと思います。

次に移ります。

河川の災害の問題についてお聞きいたします。

昨年6月の水害は、真国川にこの線状降水帯ですね、真国川の上流に起こったがために、ああいう本当に大きな被害が出たんですけれども、県下の洪水、水害、その6割が真国川というふうに調査がされておりました。これについてですね、後で予算等に出てきますけれども、ハザードマップですね、これはいつ頃公表されるのか、予算で幾ら、ちょっと覚えてませんが、載ってきているかというふうに思います。それから、答弁もございましたけれども、これ浚渫とそれから県道の改修っていうのもございました。それからもう一つ気になるのが、庄原については、先ほどの答弁の中に入ってませんでし

たけれども、これも対策はされるんですか。

○議長（美野勝男） 坂総務課長。

○総務課長（坂 詳吾） 美濃良和議員の御質問にお答えいたします。

1点目のほうですが、ハザードマップにつきましては、現在予算計上させていただいている、上程をさせていただいているところでございますけれども、完成の時期につきましては、令和6年度中の早い時期に完成したいと考えておりますけれども、まだですね梅本川の部分の結果がですね、まだ当町に届いておりませんので、議会で可決いただいた後ですねそれを受けまして、順次、早急に進めていきたいというふうに考えてございます。

以上でございます。

○議長（美野勝男） 米田建設課長。

○建設課長（米田和弘） 美濃良和議員の御質問にお答えいたします。

浚渫につきましては、令和5年度、福田、小西、西野・釜滝、蓑垣内と伺っております。そのほかにつきましては、順次、次年度以降やっていきというか、それを要望していきたいと考えてございます。庄原地区につきましても、そちらに含まれてございます。

それと県道改修という部分につきましては、これは、県のほうで内部検討している段階でございますので、何とも言えない状態ではございます。ただ町といたしましては、強くその辺りも含めて、全体的な整備っていうのを進めていただきたいと考えてございます。

以上です。

○議長（美野勝男） 11番、美濃良和議員。

○11番（美濃良和） 浚渫は大事ですけども、浚渫やっても1回雨が来たら元へ戻るんですよ。庄原も前に起こって、課長さん見てきてるでしょう。もう既にたまってますよ。前回より多いぐらいたまってます。

こういうふうなことで、抜本的に、その広く県のほうへ要望するというふうに、さきの議会で答弁いただいたんですけども、形状変えなかったら、どうしようもないんですよ。その辺はどうなんですか。

○議長（美野勝男） 米田建設課長。

○建設課長（米田和弘） 浚渫につきましては、順次継続的に行っていくことが大切であるかと考えております。抜本的な改修につきましては、やはり河川整備につま

しては、下流側から順次進めていく必要があります。そういった部分でその整備計画とは別に護岸改修とか、弱い部分であるものにつきましては、県のほうと現状確認した上で、できる対策を講じていただきたいということで要望してございます。

以上です。

○議長（美野勝男） 11番、美濃良和議員。

○11番（美濃良和） 県道改修って恐らく西野・釜滝周辺だと思うんですけども、これですね、早くやっていただかんと、さきの6月の、昨年の水害はですね、そういう釜滝もそうでしたし、西野も当然この床上もかなり高いところまで来てるんですね、庄原もかなりっていうんですか、1メートル余りの水が上がってきていると、これで皆何とか今回は公の応援もいただきながら、しかしですね、相当大きなそれぞれお金を出して改修したと。これ毎回そういうふうな目に遭ったら、皆さんどうしますかね、いてられないって、うまくそれでどっかに移転できればいいんですけど、そんな方々についてどういうふうな対策を取っていくんか、それはもう仕方ないというふうに見てるんか、その辺はどうなんですか。下流からの待ってたらあかんと思うんです。そういうふうなことについてはどうですか。

○議長（美野勝男） 米田建設課長。

○建設課長（米田和弘） お答えいたします。

いずれにしろ、真国川、貴志川につきましては県の管理河川でございますので、県当局にしっかりと地域の実情を要望して、早期の改修とか、整備とか、そういった部分につなげていただきたいと考えてございます。

以上です。

○議長（美野勝男） 11番、美濃良和議員。

○11番（美濃良和） そう言われたら、そこに住んでる方々が相当お怒りになるんじゃないかなというふうに思うんですよ。災害だから仕方がないって言われたらそれまでかもしれませんが、そういうふうなもんなんですか。

○議長（美野勝男） 米田建設課長。

○建設課長（米田和弘） 町といたしましても、護岸整備等の公共施設の維持管理という部分につきましては、引き続き精いっぱい努力を行ってまいりたいと思います。ただし、住民の皆様におかれましても、異常気象に対する災害の備え、危機管理っていう部分は引き続き行っていただきたいと考えております。どうぞよろしく願いいたし

ます。

○議長（美野勝男） 11番、美濃良和議員。

○11番（美濃良和） 私はとても今の答弁を、関係住民の方々によく申し上げませんね。どこに住む、住まはこれは、それぞれ住民の方々の自由があると思うんです。それに対してですね、防災をするための我々、義務があるのではないですか、その点はどうですか。そういうことからですね、今の答弁私は納得できないんです。もう一度町長答弁願いたいと思います。

○議長（美野勝男） 小川町長。

○町長（小川裕康） お答えをさせていただきます。

まず昨年6月2日の線状降水帯で本当に紀美野は大きな被害を受けた、我々もこれまでにない経験で対応してきたというのはございます。議員言われてる、特に西野・釜滝地区の件につきましても、6月2日に発生してもうその後すぐに現場へ行って、関係というか被害を受けた方々とも意見も交換もしました。その折には、国会議員にも来ていただいて、県議員もそうでした。今まで地域の方々も初めてのことでありますので、抜本的な対策をせなんだら、例えば、もちろん浚渫も効果はあるんですが、じゃあそれだけで事は済むんかっていうことを思ったときに、とてもとてもそれでは事は済まないってというのは我々も十分認識して、抜本的な対策をしていかなければならないということが強く認識してる。それは、河川とともに、県道の整備も含めてでの話でしたそれは。

先ほど1月23日に県議会の防災と国土強靱化特別委員会の先生方11人が来られて、ここで会議もして、書類的にも説明をさせていただいて、現場でもしっかりと見ていただいて、県議会の先生方もその必要性については十分認識していただいておりますし、その折には、県の整備部の部長も同行、そして危機管理監も同行されて、河川課長も来ておられまして、皆さん県の当局の執行部、県議会も併せて、その状況については理解していただいて、対策せんとあかんという思いは持っていただいているということがございます。我々とすれば、県の事業にありますので、強く県に働きかけるとともに、一緒になってその整備を進めていくという思いは強く持っております。ただ、じゃあすぐに今日、明日でできる問題ではありませんので、それはしっかりとどうしていくんかっていうことを県当局と協議しながら、こうして対策を進めていきたいと思います。もうそれは河川とともに県道の件もありますし、庄原の浚渫についても、その前にもやってもらってんですが、浚渫というの

は1回やったら済むものではなくて、大きな水が出ればまた土砂が堆積する。もちろんその繰り返しにはなる。これもそうなんです、やはりやっていかなければならない、これについても強く働きかけをしておりますし、県当局もその認識を強く持っていただいておりますので、それは、既に5年度で完成したところもありますけども、それで終わりはない、これからもっともっと十分働きかけていって浚渫も進めていっていただきたい。それは強く町としても、県に働きかけて一緒になって進めていきたいという思いでありますので、その点御理解いただければと思います。

以上です。

○議長（美野勝男） 11番、美濃良和議員。

○11番（美濃良和） その町長のほうから、県のほうへ強く働きかけるということでございましたので、それは本当に何ていうんですか、人も亡くなってる、それはいろんな条件が重なってということもあるんでしょうけれども、そういうとこなんですよね。やはり、それについてまたもうそこに住んでられんようなことも起こる可能性のあるところでもあると。そういうことを考えてですね、その県への交渉ですね、ぜひ進めてもらいたいと思います。

それから梅本川については、ハザードマップ、だから小川はハザードマップはできないと。これいつ頃できるんですか。

○議長（美野勝男） 坂総務課長。

○総務課長（坂 詳吾） もともと梅本川、もちろん真国川もそうだったんですが、調査は済んでおりませんでしたので、真国川につきましては、一応調査結果は出ているということでありまして、梅本川につきましても、今年度3月、本月ですね、3月中には示していただけるというふうに聞いておりますので、それを受けてのハザードマップの全体的な見直しということとなりますので、よろしく願いいたします。

以上です。

○議長（美野勝男） 11番、美濃良和議員。

○11番（美濃良和） 洪水等の災害対策については、十分にそういう工事含め、また以前から答弁もいただいておりますけれども、迂回路等ですね、迂回路、それから避難等について強めてもらいたいと思います。

次に進みたいと思います。

デマンド乗合タクシーですね、これについては、総務文教常任委員会、前任ですね、

今、議長さんされてます美野勝男さんも委員長さんで、自治体の視察にも行って、そのことからですね、当局へこの報告もあったというふうに思います。

これがですね、助成券というのはね、やはり今までないことがされて、しかも1万8,000円に引き上げられると、これについては評価するんですけども、しかし、これが町民にとってどこまで効力があるんか、効果があるんかということに思うんですね。

1万8,000円、これを対象する町民の皆さん方にお配りするということについては、それは一定の評価なんですけど、それではこの辺が十分な要求になってるんかどうかな。満たすことになるんかどうかな。つまりですね、ようあるところの平等と公平の違いっていうのがありますよね。俗っぽい話ですけど、3人の人がいて、その人たちにミカン1個ずつ渡すと、これは平等ってことなんでしょうけれど、中には、私はミカンが嫌いだよと、柿が好きなんだよって人があって、その人にもミカンを渡すことがそれが公平ではないと。やっぱりそれぞれに合った、要望に基づく対応が必要かというふうに思うんです。紀美野町は先ほど言いましたように、施設が偏っていると、偏在してることになりまますよね。やはり入院できる施設、病院で言えば厚生病院で西のほうにある。また、買物もほとんど生鮮は町内でできなくなってきたと。そういうふうなことで、もう東の方に住む人たちにとって、この買物にも、あるいは医療機関、または友人の葬儀等にも、どうしても長い距離を移動しなければそれに到達できないと。だったらですね、極端な話、長谷宮に住む方と、それから小畑に住まれる方っていうのは、これは同じじゃないでしょう。長谷から厚生病院に来るのに、片道だけでも5,000円、6,000円ってかかるんじゃないですか。これで6,000円要ったら、1回半で1万8,000円なくなってしまうんですよ。そういうふうに考えていった場合に、これでは、この皆さん、ひきこもり対策とはいろんな点を考えて、この制度がつくられてると思いますけれども、ちょっとやはり考えなければならんんじゃないですか。どうですか。

○議長（美野勝男） 坂総務課長。

○総務課長（坂 詳吾） 美濃良和議員の御質問にお答えいたします。

以前からですね、総務文教常任委員会のほうでも、この問題について、いろいろと議論をされているところではございます。そのときにもですね、委員さんのほうから、西と東のほうとの人の違いというんですか、そういうことも御指摘は受けてるんですけども、そのときも答弁させていただいているんですけど、やはりその目的地というのは、人それぞれでございます。もちろん議員おっしゃられるように厚生病院とか、そういった

あたりが多いということもあるかも知れませんが、やはり東のほうですね、東のほうへ道もよくなっておりますのでそちらのほうへ行かれるという方も増えてはきている方もいらっしゃるというのも実情でございます。

なかなか一人一人のニーズに合ったようなことっていうのはなかなか難しい面もございますので、今回ですねちょっと6,000円の増額を一応お願いしているところではございますけども、やはり、財政も厳しい面もあるんですけども、1万2,000円ではちょっと安いということもございまして、ちょっといろいろ見直しをしてる中で、一応今回6,000円ちょっと増やさせていただいた提案をさせていただいているというところがございますので、御理解いただきたいと思います。

以上でございます。

○議長（美野勝男） 11番、美濃良和議員。

○11番（美濃良和） この制度ですね、紀美野町高齢者等外出支援タクシー・バス助成券事業実施要綱がありますよね。その1条の目的を見ましたら、高齢者、重度心身障害児者及び妊婦の生活行為の範囲の拡大と社会参加の促進を図るため、高齢者等に対し、タクシー等の利用料金の一部を助成し、高齢者等の福祉の増進に寄与することを目的とすると、こうなってますよね。これはどういう意味ですか。どういうことでこの事業がされてる。この読んだ限りではですね、福祉の向上、食事の買物なんてまさに福祉でしょ。その医療の東のほうに行けば、診療所があって、長谷毛原診療所、それから国吉診療所、あるいは真国、それから細野診療所とございますけれども、それで十分に間に合うかどうか、福祉というふうな観点からしてですね、もっと考えなきゃならないじゃないですか。

○議長（美野勝男） 坂総務課長。

○総務課長（坂 詳吾） 議員おっしゃられますように、このタクシー券のそもそもの目的っていうのは、社会福祉の関係、高齢者福祉ですね、といった形の社会参画であるとか、そういった形の目的で発足したものであるとは認識してございます。

もちろん、そういうことでこういう助成券を発行しているんですけども、それはやはり先ほど言いましたように、いろんな目的が違いますので、なかなか一律に同じような形というのは難しい部分がございますので、一応助成券ということで一定の金額を助成すると、それによってタクシーでも、コミュニティバスもそうですけども、自分が行きたい目的地へ行っていただいて、それで社会参画、ちょっとでも利便性を向上したいと

いうことでやっておりますので、御理解いただきたいと思います。

以上です。

○議長（美野勝男） 11番、美濃良和議員。

○11番（美濃良和） その目的というふうな形で今、ふれあいタクシー、ふれあい号ですね、バスの、コミュニティの回ってます。この間、調査されましたよね。それについてはどうですか。

○議長（美野勝男） 坂総務課長。

○総務課長（坂 詳吾） 2月にですね、このコミュニティバスのちょっとアンケート調査といいますか、実際にちょっと乗って、委託をさせていただいてですね、そこで2月いっぱいアンケート調査を実施いたしました。ただその結果につきましては、現在ちょっと取りまとめ中でございますので、最終の結果につきましては、まだちょっとこちらでも把握はしてございません。ただ2月末には一応調査は終わっておりますので、それを今後分析したいと考えてございます。

以上です。

○議長（美野勝男） 11番、美濃良和議員。

○11番（美濃良和） これですね、出次第またそれについてお聞かせいただきたいと思います。実際のところですね、回った方の話を聞いても、それがかなり人が乗っていないというような状況になっている。またですね、バスですからぐるっと回って来なければ、目的地に着かないと。タクシーやったら直に行きますけど。そういうふうな方々の要求もあったり、何してもですね、今、紀美野町にとって交通問題というのは大変大事な問題になってきているというふうに考えます。そういうことから考えてですね、多分、今調べておられるアンケート調査、またそれに対してですね、今、実施されている助成券の制度、それに比べてデマンド乗合タクシーですね。これについても含めて検討していただくと、そういうことについてはどうですか。

○議長（美野勝男） 坂総務課長。

○総務課長（坂 詳吾） 今、議員おっしゃられましたようにですね、いろんな公共交通の在り方っていうのは、見直しをしなければいけない時期に来ているということは当局も認識をしております。いろんな方式で路線バスであるとか、コミュニティバスそれからこの助成券であるとか、そういったものを総合的にですね、勘案して、検討はしていきたいというふうには考えてございますので御理解いただきたいと思います。

以上です。

○議長（美野勝男） 11番、美濃良和議員。

○11番（美濃良和） そういうことでぜひお願いしたいと思います。町は先進的な施策としては、長谷毛原それから国吉の診療所については、送迎のタクシーの制度を出してますよね。大変立派なことだと思います。そういうことで決算の状況を見ても、かなりその長谷毛原それから国吉、これ上神野の一部が入ってるんですよね。のところは、診察を受ける方々の数も増えてたり、成果も上がってると思います。そういうことで、ぜひともこのデマンド乗合タクシーも含めての御検討をお願いして次に行きます。

かじか荘の状況なんですけれども、この壊れているのが見つかったのはいつですか。それ要望、すみません。修理をしなければならぬ壊れている箇所が見つかったというのが相当前の状況ではないんですか。

○議長（美野勝男） 中前企画管財課長。

○企画管財課長（中前貴康） 私のほうから、美濃議員の質問にお答えさせていただきます。

今回の露天風呂においての漏水につきましては、令和4年12月頃から漏水はしております。それが判明して報告を受け、様々な調査を行いました。場所の特定には至らずに現在までいてました。それで先日2月20日において損傷していた送水配管があることが判明しまして、そこを修繕を行ったところでございます。

以上です。

○議長（美野勝男） 11番、美濃良和議員。

○11番（美濃良和） 何にしてもですね、老朽化してきてるのはもうどこもななんですけれども、かじか荘についても、また指定管理をしている生石山等々ですね、コロナの問題、これらの方々がですね、一生懸命やっていたというのを含めてですね、町としてもできる限りの応援というのが必要かというふうに思うんですね。応援というのはやはりこういうふうな面で、老朽化したところをできるだけ直しながら、営業してもらおうと、そういうことになっていくかというふうに思いますけれども、その辺の状況について、事前の向こうから言うてくるのを待つというのもなんですけれども、町としてもそれについてその管理の責任上、調べておくということが大事かというふうに思うんですけれども、その辺についてはどうでしょうか。

○議長（美野勝男） 中前企画管財課長。

○企画管財課長（中前貴康） 美濃議員の質問にお答えさせていただきます。

先ほどもお答えさせていただいたとおりですね、日常の点検につきましては、指定管理者さんにおいて、指定管理者の業務の範囲としてやっていただくということが基本となっておりまして、今回露天風呂の漏水においてこれだけの長い間の期間、漏水の場所も特定できずに修繕が今までかかってしまったことは大変申し訳ないと考えてございます。そういった中でですね、常にそういった修繕が必要な場合等については、報告をいただいて、その後指定管理者さんと修繕する箇所等についての協議は行っていますが、今後につきましては、施設の老朽化も進んでいることということもありまして、こちらのほうからも状況等の把握に努めてまいりたいと考えてございます。

以上です。

○議長（美野勝男） 以上で、美濃良和議員の質問を終了いたします。

暫時休憩いたします。

休 憩

（午前 11 時 50 分）

再 開

○議長（美野勝男） 休憩前に引き続き会議を開きます。

（午後 1 時 14 分）

○議長（美野勝男） 続いて、10番、伊都堅仁議員。

（10番 伊都堅仁議員 登壇）

○10番（伊都堅仁） 私からはですね、まず最初に、「ニホンアカガエル」の文化財指定のための審議会の結果について。

ニホンアカガエルの文化財指定のための審議会が去る2月14日に開催され、現地調査を行った後、審議が行われ、結果として継続審議になった旨を聞いていますが、私自身、ほかの公務のために審議会の傍聴もできず、経過や詳細が全く分かっておりません。そのことについて説明をいただきたいというふうに思います。

2問目に、災害時における役場と地域の連絡連携についてと、住民が安全に避難できる取組についてということで、去る2月17日、18日、真国地区と小畑地区において、従来の議会報告会を住民と議員との懇談会という形で開催しましたが、その中で、住民が最も不安に思っているのが、災害時の避難場所が確立されていないことと、緊急時に

町との連絡連携がスムーズに取れるのかということでありました。そのことについて、町がどのように考えているのかということをお聞きしたいと思います。

3番目に、道の駅の今後の進め方について。

道の駅検討会が道の駅のコンセプトを取りまとめて答申を行い、それによって道の駅の話が中断した形になっておりますが、今後、それをどういうふうに進めていくのか、町の考えをお聞きしたいと思います。

以上です。よろしくお願いいたします

(10番 伊都堅仁議員 降壇)

○議長(美野勝男) それでは、伊都堅仁議員の質問に対する当局の答弁を求めます。

曲里教育次長。

(教育次長 曲里充司 登壇)

○教育次長(曲里充司) 伊都議員の1問目の「ニホンアカガエル」の文化財指定のための審議会の結果についてお答えさせていただきます。

ニホンアカガエルを町文化財に指定するかどうかについて審議するため、去る2月14日に第2回紀美野町文化財保護審議会を開催しました。

審議会では、まず審議前に現地調査を実施しました。現地調査では、かつてこの場所でニホンアカガエルを発見した地域の方や、両生類に詳しい方にも御協力いただき、発見場所やニホンアカガエルの生態などの説明をお聞きしました。

調査の数日前には、成体が見られたようでしたが、調査当日には卵塊も成体も見つかりませんでした。

審議会は、地域の方々が傍聴される中で進められました。審議では、申請のあった土地のニホンアカガエルを速やかに町文化財に指定するべきであるという意見、現在、ビオトープを作り、地域の方がニホンアカガエルを保護・保全しようという熱意は感じたが、今後も守っていけるのかどうかという意見も出されました。

しかし逆に、町文化財に指定してしまうと、子どもたちがカエルを捕まえたり、触れ合うことが制限され、生き物に興味を持つことに対して逆効果になりかねないというような意見もありました。

また、紀美野町内において、申請のあった場所以外にも生息が見られたということや、町の文化財に指定するのであれば、町内の生息分布の調査も必要ではないかというよう

に、もっと詳しく調査し、根拠となるデータにのっとり指定していく必要があるなど、様々な意見があり、結論には至りませんでした。

結論が出るまで、さらに話し合いをすることが必要であると発言された委員さんもおり、3月に再度審議会を開催することとなりました。

以上、「ニホンアカガエル」の文化財指定のための審議会の結果の答弁とさせていただきます。

(教育次長 曲里充司 降壇)

○議長 (美野勝男) 坂総務課長。

(総務課長 坂 詳吾 登壇)

○総務課長 (坂 詳吾) それでは私のほうから、伊都議員の2番目の災害時における役場と地域との連絡連携についてと、住民が安全に避難できる取組についての御質問にお答えいたします。

住民が最も不安に思っているのが、災害時の避難場所が確立されていないとのことですが、昨年の6月の豪雨災害を受け、避難場所の見直しを行いました。令和3年に貴志川の浸水区域の県の公表結果を踏まえ、浸水の可能性があり、垂直避難もできない指定緊急避難場所は除外しました。しかしながら、6月の豪雨災害の検証結果を考慮し、また地元住民からの強い要望もあり、小畑集会所、吉野集会所、福田集会所、国吉多目的集会所の計4か所を再指定し、新たに東野集会所と毛原下集会所を指定しまして、現在34施設が指定緊急避難場所となっております。

再指定しました集会所は、ハザードマップ上では浸水区域に該当しておりますが、集会所が浸水するまでの水位の上昇には時間を要しますので、災害初期の段階では、避難場所として開設し、雨の状況や水位の上昇により浸水の可能性が出てきた場合は、直ちに閉鎖し、他の避難場所へ誘導するというところで、再指定をしたところでございます。

本来であれば、各地区の集会所を避難場所に指定したいところではございますが、避難場所として、安全な集会所等の公共施設がないことが理由で、指定緊急避難場所がない地区もございます。

そのような地区におきましては、いつどこへ避難するのかということを事前に地域の中で話し合っただけということも重要かと考えております。

続きまして、緊急時に町との連絡連携がスムーズに取れるのかということですが、緊急時に限らず、自主防災組織の訓練などを通じ、緊急時には連絡連携がスムーズに行え

るよう、日頃からの備え、訓練と地域との連携が大変重要であると認識しており、自主防災組織や地域との情報共有などを通じ、連携を強化できればと考えております。

災害発生中の道路の通行困難等の情報につきましては、役場の職員で現場確認等を行い、被害状況の把握等を行います。状況把握に関しましては、地元からの情報提供も重要だと考えておりますので、御協力をお願いしたいと考えております。

以上、災害時における役場と地域との連絡連携についてと、住民が安全に避難できる取組についての答弁とさせていただきます。

(総務課長 坂 詳吾 降壇)

○議長（美野勝男） 中前企画管財課長。

(企画管財課長 中前貴康 登壇)

○企画管財課長（中前貴康） 続きまして、私のほうから、伊都議員の3番目の道の駅の今後の進め方についての御質問にお答えさせていただきます。

議員御承知のとおり、令和3年度から道の駅検討委員会を立ち上げ、紀美野町の道の駅に備えるべき機能や役割、すなわちコンセプトについて6回にわたり協議を重ねてまいりました。

委員の皆様方からいただいた多方面の貴重な意見を取りまとめ、令和5年5月15日に道の駅検討委員会から町長宛てにコンセプトについての答申がされたところでございます。

今後の進め方としまして、令和6年度より道の駅を整備するための基本計画の策定や、道の駅整備候補地の選定を進めていくことと考えてございます。

基本計画の策定におきましては、検討委員会からいただいたコンセプトを基にして、道の駅に備える具体的な施設や機能を検討するとともに、道の駅を整備する手法についても検討することとしてございます。

これらの検討に当たり、情報提供、資料提供や運営事業者の視点に立ったアドバイスなどを得るための支援を受けながら、基本計画策定などを進めていくこととしてございます。

今後も道の駅検討委員会の皆様と道の駅単体ではなく、町全体の活性化を図ることを考えながら、道の駅の整備や運営に係る費用を上回る経済波及効果を生み出すことができるよう協議しながら、慎重に進めてまいりたいと考えてございます。

経費等につきましては、その都度議会に上程し、御審議いただき進めさせていただきます。

ますので、御理解賜りますようよろしくお願いいたします。

以上、簡単ではございますが、答弁とさせていただきます

(企画管財課長 中前貴康 降壇)

○議長 (美野勝男) 以上で、1回目の答弁が終わりました。

これより自席で起立して質問、答弁をしてください。

10番、伊都堅仁議員。

○10番 (伊都堅仁) 最初のニホンアカガエルの文化財指定の件ですけども、現地調査で何も出てこないんだってことですね。14日の現地調査では何も出てこなんだっっちゃうことですか。

○議長 (美野勝男) 曲里教育次長。

○教育次長 (曲里充司) 先ほど答弁にもありましたが、確認はできなかった、当日は確認できなかったということでございます。

○議長 (美野勝男) 10番、伊都堅仁議員。

○10番 (伊都堅仁) 卵とかそういうものも見つからなかったんですか。

○議長 (美野勝男) 曲里教育次長。

○教育次長 (曲里充司) そのとおりでございます。

○議長 (美野勝男) 10番、伊都堅仁議員。

○10番 (伊都堅仁) あとですね専門家か誰かにお願いして、そういう人に説明してもらおうということですけども、そういうことはされてるんですか。

○議長 (美野勝男) 曲里教育次長。

○教育次長 (曲里充司) 一番最初の答弁でもありましたが、現地にはもちろん地元の方もいらっしゃいましたし、専門家の方にも同席をいただきながら、両生類の話もお聞かせいただきながら、現地捜査を行ったというものでございます。

○議長 (美野勝男) 10番、伊都堅仁議員。

○10番 (伊都堅仁) 専門家に説明を聞きながら、やったということですね。

○議長 (美野勝男) 曲里教育次長。

○教育次長 (曲里充司) そのとおりでございます。

○議長 (美野勝男) 10番、伊都堅仁議員。

○10番 (伊都堅仁) 事務局、多分、教育委員会で設定されたんやと思うんですけども、どういう形でできたんですか。事務局がどういう形になってるんですか。

- 議長（美野勝男） 曲里教育次長。
- 教育次長（曲里充司） 質問の内容は。教育委員会の事務局もそちらの当日は同席をさせていただいたということです。はい。
- 議長（美野勝男） 10番、伊都堅仁議員。
- 10番（伊都堅仁） 要するに、審議会のための事務局を教育委員会で設定していると思うんですけども、どういう形でできてるんですか。スタッフが例えば何人とか、そこをお聞きしてるんですけど。
- 議長（美野勝男） 曲里教育次長。
- 教育次長（曲里充司） 教育委員会の中で担当者がおります。それが事務局、事務を担っているということになります。
- 議長（美野勝男） 10番、伊都堅仁議員。
- 10番（伊都堅仁） 何人かで事務局を形成しているということですか。1人。
- 議長（美野勝男） 曲里教育次長。
- 教育次長（曲里充司） 教育委員会として事務局は持ってますし、担当者としては2人おります。
- 議長（美野勝男） 10番、伊都堅仁議員。
- 10番（伊都堅仁） 何でそれを聞いたかっちゅうと、こういうものの進め方というのは多分事務局次第やと思う。というのは、もちろん決めるのは審議会が決めるけども、事務局の持っていく方で大体話が決まってくるという。私はそういうふうに思っております。
- これは、九度山のアオガエルなんかでもそうなんですけども、結局に熱心な職員がいて、その人が引っ張って指定をしていると。事務局次第やなというふうに私は思ってるんやけども、何かそういう指導的な役割を果たす人はおらんのかなと。というのは希少生物を文化財にするっちゅうようなことは、これそんなにチャンスあるわけじゃないんですよ。それなのに、やっぱ普通意欲を持った人やったらやりたいなと思うのが当たり前だと思うんやけども、それをしないでそのままにしてるっていうのが、おかしいなと私はそっちのほうが思ったんやけども。そこらはどうなんですか。事務局の中でもその話ってのは、教育委員会の中でそういう話はありませんか。
- 議長（美野勝男） 曲里教育次長。
- 教育次長（曲里充司） 今の発言の中で意欲というような発言については、ちょ

つと何とも言い難いというか、意欲というよりはもちろん業務として事務を担当しているというものにはなっただろうかと思えます。

○議長（美野勝男） 10番、伊都堅仁議員。

○10番（伊都堅仁） 普通やっぱり人というのは仕事するわけでしょう。職員さんも一つの仕事ですよ。その中でやっぱり例えば、こういうものがあれば、そんな希少生物の文化財にするようなことはめったにないことでしょう。チャンスよねまあ言うたら。そういうようなときに、やっぱり普通意欲を持ってやるのが職員やったら当たり前だなと私は思うけどな。何とかそれを文化財にしたいなと思うのが当たり前だと思うけども、そういうあれはなかったんかなと、そのないのが、ないことに失望するわな。私はそんなん思うけども。どうなんですか。

○議長（美野勝男） 東中教育長。

○教育長（東中啓吉） 文化財の指定については、教育委員会で事務局を持ってまして、指定をするというのは、あくまで町指定ですから、町の審議委員会の委員さんに諮って、その中でこれは、指定していきましょうという結論を得て、初めてその答申をもらって初めて指定するということでありまして、今、文化財保護審議委員さんの方々にいろいろ議論をしていただいているところなんですけど、先ほど申し上げたように、まだ様々な意見があり、なかなかまとまらないということで、再度、審議をやるということになっていますので、決して、文化財保護に関して、後ろ向きにやっているとということではございませんので、御了解していただきたいと思えます。

○議長（美野勝男） 10番、伊都堅仁議員。

○10番（伊都堅仁） それはよく分かってますし、別にその審議会の結論に対してどうこう言うつもりは全くないんです。ただ、話の進め方というのは、やっぱりある程度筋道立てて、我々、議論しながら、誰かがまとめていかないと話は前に進めへん。そこが事務局の役割ちゅうのはやっぱり重要やないかなと私は思うんやけども、違うんかな。

○議長（美野勝男） 東中教育長。

○教育長（東中啓吉） おっしゃるとおり、事務局も一生懸命やっておりますが、ある一つのもの、例えば、町指定というのは今ないんで、例えば、県指定を一つ考えた場合に、その県、何かを指定するというときには、非常に膨大なデータ、資料が必要になりまして、その中で、審議委員の方が議論していただいて決めていただくということ

になるわけで、今回の場合、審議委員会の委員さん方がいろいろな意見が出ております。それは、一つにはまだデータの不足ということもあろうかというふうに考えています。

○議長（美野勝男） 10番、伊都堅仁議員。

○10番（伊都堅仁） この件はこれで、あとはもうどっちみち次の審議会の中での話になってくると思うんで結構ですけども、次にですね、災害の問題で、逆に言うところこれは、私はもっとできてると思った。そういうことについては十分できてというのが、私がちょうど議員になったときの課長が南さんちゅう人やってんけども、昔ですからコンピュータもないし、総務の課長なんやけども、いつも下におって、誰かが来たら、誰かさん何よ、ここへ来たんやと、そしたらここへ行きなさいとかいうようなことをずっとやってたような課長で、あんまり上におらんかったんやけども、住民とのコミュニケーションというのはちゃんとできて、災害起こったときの話ちゅうのをその人といういろいろしたんやけど、完璧にできてたように思うんですそのときは。各地域とのコミュニケーションというのは、非常に取れてたように思ったんやけど、この前、懇談会、議員とあれとの懇談会という形でやったんで、その中で出てきたのは、物すごく不安な住民の声というのが聞こえてきたんで、これを取り上げて質問したということなんです。

何か前に比べると、遅れてるじゃないけども、こんな場合どないしたらええんよというその不安な感じが物すごい出たんで、そこらのところをもうちょっと地域との連携も含めて、ちゃんとした形をできたら、その総務のほうでつくってしまうべきじゃないかなというそのことで質問したちゅうことなんです。そこのところ一遍、もうちょっと考えていただいて、地域との連携ちゅうことを含めて、きめ細かにやっていただければなというふうに思う。

○議長（美野勝男） 坂総務課長。

○総務課長（坂 詳吾） 伊都議員の御質問にお答えいたします。

議員おっしゃるとおり、やはり住民とのこういう特に災害の場合とかであられましたら、住民とのコミュニケーション、地域とのコミュニケーション、非常に重要であるということは私も認識しております。またその災害起こったときにはですね、やはりその災害対応でばたばたとしてるっていうのも事実でありますんで、ただ、ある程度落ち着いてですね、もちろんそのときの情報提供というのも必要なんで、その部分の情報提供というのはもちろん行っていくんですけども、やはり地域との連携っていうのは非常に重要視はしていかなければならないというふうに私も今回痛感しております。この間

の区長会でもですね、そういったお話もございまして、やはり地域との連携、自主防災組織であるとか、そういったこと等も連携しながらですね、進めていくということでも認識はしてございますので、御理解いただきたいと思います。

以上でございます。

○議長（美野勝男） 10番、伊都堅仁議員。

○10番（伊都堅仁） この話はもうそのぐらいのところで、今、別に今どうこうとって問題がないのでこれで結構です。

3番目のですね、答弁があまりよく分からなんだ。一体どんなするんよって感じなんやけども、具体的にどういうふうな形でこれを進めていくんか、進めていくんかそれともこれで終わりなんか、そこらどうなんですか。

○議長（美野勝男） 中前企画管財課長。

○企画管財課長（中前貴康） 伊都議員の質問にお答えさせていただきます。

先ほどもお答えさせていただいておりますが、今後の進め方としまして、令和6年度より、道の駅を整備するための基本計画の策定や、道の駅整備のための候補地の選定を進めていくことと考えてございます。また、令和6年度当初予算のほうにおいてですね、この基本計画の策定に関わる支援業務についての予算も計上させていただいておりますので、6年度より整備のための基本計画の策定、道の駅整備候補地の選定等を順次進めていくことと考えてございますので御理解いただきたいと思います。

○議長（美野勝男） 以上で、伊都堅仁議員の質問を終了いたします。

続いて、4番、藤井基彰議員。

（4番 藤井基彰 登壇）

○4番（藤井基彰） それでは、私から1点質問いたします。

DXなどによる町民のサービスの向上についてお伺いします。

昨年6月、12月の定例会でも一般質問しているDXの推進ですが、デジタル技術を活用して業務改革を進め、職員の負担軽減による仕事の効率化や、町民生活の利便性の向上につなげることを目標と話されています。

その例として、マイナンバーカードの普及や各種申請のオンライン化を挙げられています。

そのような中で役場に来た方が1つの窓口でいろんな手続が申請が完了できる、いわゆるワンストップを毎回訴えているところですが、答弁では難しい点もあるが、前向き

に取り組んでいくとお話しされていることと認識しています。

ところが、今のところそういう実感はなく、相変わらず申請に来た方が、どここの課に行って証明書をもらってきてください、これはどここの課に行って証明書をもらってきてください、そういう申請者が移動して、いろんな手続をしなければならない状況が続いていると思います。

D Xによる町が目指している町民サービスは一体どのようなことなのか、具体的に教えてください。その中に申請のワンストップは含まれていますか。

この間の答弁でオンラインの申請の一定の効果があることは認識しています。それとは別に多くの方が役場に来られる中、町民が求めるサービスと少しずれているのではないかと感じます。

ワンストップについてはどこまでできるのか、どこで問題が生じているのか、その原因と解決策はどうなのか。

D X特別推進室ができて2年余りになります。昨年6月、私の質問から今まで半年余りになります。具体的な状況を教えてください。

以上です。

(4番 藤井基彰 降壇)

○議長(美野勝男) それでは、藤井基彰議員の質問に対する当局の答弁を求めます。

坂総務課長。

(総務課長 坂 詳吾 登壇)

○総務課長(坂 詳吾) それでは私のほうから、藤井議員のD Xなどによる町民サービスの向上についての御質問にお答えいたします。

D Xの推進については、令和4年3月に制定いたしました紀美野町D X推進計画に基づき進めてきました。達成目標を、誰もがデジタルの利便性を享受できる町の実現に向け、デジタル技術やI C Tを活用して、行政スタイル自体を根本的に見直し、改新することで、住民サービス向上を目指すと宣言しています。

令和4年度、5年度におきましては、計画に示されている行政手続のオンライン化、マイナンバーカードの普及促進、A I・R P Aなどを活用した業務の効率化、テレワークの推進、デジタルデバイド対策、オープンデータの推進、セキュリティ対策を重点的に進めてきました。

また、この間に国が示す自治体DX推進計画が令和6年2月5日に改定されました。そこに示されている自治体に取り組むべき重点事項として、1、自治体の窓口改革の推進。2、自治体情報システムの標準化、共通化。3、公金収納におけるeLTAXの活用。4、マイナンバーカードの普及促進、利用の推進。5、セキュリティ対策の徹底。6、自治体のAI・RPAの利用推進。7、テレワークの推進が掲げられています。

これに伴い、町のDX推進計画も改定を行い、令和6年度より国が示す重点取組事項を1つずつ丁寧に進める必要があると考えています。

この取組をよりよい改革とするためには、業務のBPR、システムデザイン、機運醸成等多くの壁があり、一足飛びに進めることはできませんが、行政スタイル自体を根本的に見直し、改新するためには乗り越えていかなければならないことであると認識しております。

住民の利便性向上、行政サービスの向上のために職員一同で取り組み、進めてまいりますので御理解、御協力いただきますようよろしくお願いいたします。

以上、DXなどによる町民サービスの向上についての答弁とさせていただきます。

(総務課長 坂 詳吾 降壇)

○議長(美野勝男) 以上で1回目の答弁が終わりました。

これより自席で起立して、質問、答弁をしてください。

4番、藤井基彰議員。

○議長(美野勝男) 4番、藤井基彰議員。

○4番(藤井基彰) 今の御答弁、残念ながら、私の頭には難しい横文字がたくさんありまして、具体的に何がどうなのかってよく分からない。その中で、国の方針も含めて、一つ窓口改革の推進という言葉、お答えをおっしゃったように思います。つまり私は先ほど最初質問した中でありましたように、これは結局、町民の方が窓口に来て、あまり不便を感じない、できるだけ無駄なく申請等々ができる、こういうことをまさに指しているんだろうと思います。今、言ったいろんなデジタル技術の横文字ちょっと別にして、この今、窓口改革、この1点で具体的にどういう状況、どこまで改革ができているのか、可能性があるのか、どういう点で問題があるのか、この付近もし分かりましたらよろしくお願いいたします。

○議長(美野勝男) 坂総務課長。

○総務課長(坂 詳吾) 藤井議員の御質問にお答えいたします。

議員おっしゃるように、先ほど私が言いました自治体窓口改革の推進という部分につきましては、ワンストップ窓口ということをはぼ指しているというふうに理解していただいてよろしいかと思ます。

ワンストップにつきましては転入転出の届出であるとかですね、お亡くなりになられた方の手続であるとか、そういったことは現在、基本ですね、ワンストップでできているというふうに考えてございます。どうしてもワンストップでもできない部分っていう事情、事柄もございすが、その点につきましては、今後できる範囲でですね、住民の方が書かないとかですね、移動する必要がないことをできるような住民サービスの向上に努めてまいりたいと、できる範囲で進めていきたいというふうに考えてございますので、御理解いただきたいと思ます。

以上でございます。

○議長（美野勝男） 4番、藤井基彰議員。

○4番（藤井基彰） 窓口改革、一部はその場でできるって今おっしゃってましたけども、例えば現に我々もこの間の大雨の後の災害のいろんな証明書もらいに行っても、産業課行ったら、この部分は産業課ですけれど、あとは建設課でもらって来てねとか、説明してねとか、ほかのことでしたら、いろんな納税証明書は税務課でもらってきてくださいとか、そういうことがやっぱり現状として多々あると思ます。私がお願いしたいのは、入り口入って総合窓口にせよ、最初の住民課のところのせよ、ここ行って何々でどういうことがしたいんですけどもって仮にその方がお話しすれば、それは住民課ですね、これは税務課ですね、これは別、でもそれも全部こちらで用意しますよ、ここにサインしてくださいねとか、ちょっとメモってくださいねとかって、そういう形ができないかってことをお話ししてるんです。もっと具体的に言えば、その窓口から税務課とか他のところのパソコンか何かそのデータのほうへつながっていて、そっからその方の必要なデータを例えば税務課のところのアクセスして、税務課でその方の納税証明書を出してくるとか、戸籍謄本を出してくるとか、そういうためのワンストップこれはできないのかっていうお話なんですけども、その辺はパソコンの横のつながりっていうのはできてないんですか。

○議長（美野勝男） 坂総務課長。

○総務課長（坂 詳吾） 議員おっしゃるワンストップっていうんですかね、言われてる部分につきましては、国で言ってるフロントヤード改革といいますか、それもま

たちちょっと横文字になるんですけども、国が言っているのはフロントヤード改革といたしまして、その総合窓口であったりとかね、ワンストップであったり、書かせない窓口っていうものを指しております。

総合窓口的な部分につきましては、ちょっとこれも今後の検討課題というか検討していくことにはなると思うんですけども、現時点ではワンストップということで、その場所で、全ての、全てといいますか、必要な部分の書類というのは、そこで集約できる、ほかの課から取り寄せて、住民の方が移動しなくてもできるということは、現在でも行っております。そのフロントヤードを総合窓口的なことについては、ちょっとまた今後もちょうと検討していきたいと思います。現時点では、そこまでは至ってないというのが実情でございます。

以上でございます。

○議長（美野勝男） 4番、藤井基彰議員。

○4番（藤井基彰） 今の御返答で一つ確認なんですけど、結局最初窓口に行って、その場では例えば住民票くださいねとか、そこがその場で住民課の窓口なんでできるのは分かるんですけども、一緒に納税証明書もくださいねっていうのは、その場では物理的にもつながってへんから無理ということなんですか。もっと逆に言えば、庁内の役場内のそれぞれのいろんなデータというのは、今の時代、僕ちょっとインターネットも詳しくないし、パソコンも詳しくないんですけども、以前だったらホストコンピューターがあって、データベースがボンとそこに入って、そっからそこへ迎えに行って閲覧なり検索すればその方のいろんな情報が出てくると。

先ほどちょっとお話ししましたクラウドでやって、そっからいろんな抽出とかできるんだらうと、そういう状況が民間だったら結構できてるんじゃないかなと思うんですけども、当役場ではそういうような状況はできてないと。結局税務課から他の住民課の情報はどうなやっても閲覧とか検索はできないという状況なんですか。

○議長（美野勝男） 坂総務課長。

○総務課長（坂 詳吾） もちろんデータ管理につきましては、全てクラウドとかですねサーバーで管理をしてるんですけども、やはり業務の部分によってですね、個人情報であるとか、そういった部分もございます。誰でもが、役場職員が全て見れるっていう形にはもちろんなってございません。必要な部署で、必要な方が、情報を見れるということになっております。ただ連携として、そういうことを課内でできる部分につい

ては、お互いに情報共有してる部分がございますけども、そういう個人情報云々の話も
ございますので、そこはちょっと御理解いただきたいと思います。

以上です。

○議長（美野勝男） 4番、藤井基彰議員。

○4番（藤井基彰） だからそれを役場の方が個人情報を管理されるんであって、
その住民課の方の信用どうこうとかになってくるんだったら、僕らも何も言えないんで
すけども、住民課の窓口の方がこれは税務課のことですから、私が税務課のデータを検
索しますと。当然それに対しては不用意な書き込みや改ざんしたら、いろんな問題が起
きますから、アクセスキーか何かで誰が閲覧したとか、分かるような形ですれば、後々、
もし何かあれば追っかけていけば、この時点で何か問題があったんだねと分かると思
うんですけども。だから僕が言ってるのはその閲覧もしくはその状況をプリントアウト
する、そういうことがなぜできないのかなど。個人情報どうこうっていうのはよく分か
るんですけども、一応その職場内でそういう担当する方がいてるんですから、例えば住
民課の方が税務課の個人情報を見られないっていういろんな難しい点があるんだったら、
それはそれでまた一つの問題なんですけども、そういうことができないんですね。

○議長（美野勝男） 東浦住民課長。

○住民課長（東浦功三） 藤井議員の御質問の中で、課を横断してデータの閲覧で
あるとか、それは一部制限はされてます。各法によって。ですが今、住民課の中におい
ては、総合窓口っていうのは、役場の中ではまだ設置できてません。ですが住民課のほ
うにですね、転出、あるいは転入とか来られる場合は、またお悔やみ関係で来られる場
合は、電子的なつながりっていうのはないんですが各課とね、できる範囲のことで全て
住民課の窓口で座っていただいて、そこに各課の担当者が来ていただいて、そこで処理
をしていただくと、そういった体制を組んでおります。

中にはちょっと複雑な事情もあって、別の課にちょっと行って相談してくださいって
いうところも、部分もございます。ですが標準的な手続、転入転出、それからお悔やみ
に関しては、住民課の来ていただいたときは、住民課のところで窓口で全てを済ませて
もらえるような体制を取っております。逆に税務課に先来られた場合は、税務課のほう
にこちらのほうから職員が赴いて、そちらのほうで手続を完了させる。そういった取組
はやっております。

以上です。

○議長（美野勝男） 4番、藤井基彰議員。

○4番（藤井基彰） そこをちょっとお伺いしたかったんです。フロアはWi-Fiつながってるんですから、もし僕が行けばこれは住民課だよ、これは何課だと言ったのをノートパソコン持って寄ってきてくれたらいいんです。言い方すごい言葉申し訳ないんですけども、今そういうことをされてるってことですよね。住民課長のお話では。

○住民課長（東浦功三） ノートパソコン持っていったりはしてないです。

○4番（藤井基彰） いやだから、具体的なそういうような近いサービスはできて、ワンストップに近いようなところを、少しアナログもありますけどもできてるっていうことですね。それでよろしいですか。

○議長（美野勝男） 東浦住民課長。

○住民課長（東浦功三） そのDXの中のXの部分にトランスフォーメーションの部分重視して、ちょっとDのほうがついて各法の規制があつて、ついてこれない場合もありますけれども、できるだけ書かせない、待たせない窓口というのを目指してしております。中に簡単窓口システムというの、住民課には備えております。そこで、例えば住民票と課税証明を取りたいっていう方がいらっしゃったら、マイナンバーカードを持ってらっしゃるってことを確認させていただいて、そしてその簡単窓口で処理をしていただくと。どちらも取れるようになってます。

また、簡単窓口システムは福祉センターの方にも備えております。福祉の子育て関係で手続に福祉へ行かれた際に、住民票が必要だということであれば、マイナンバーカードさえ持っていていただければ、そこで住民票を取れるようなシステムも備えております。

以上です。

○議長（美野勝男） 4番、藤井基彰議員。

○4番（藤井基彰） そういうのがね、もっと進んでくれたら取りあえずDXまでいかなくても、年配の方が、要はデジタルっておっしゃいますけども、もう年配の方は、デジタルが進めば進むほどついていけなくなる、相反して。そういう状況になっていきますので、どうしても電話とか、窓口行ってこうこうしたいんですけどっていう形になると思うんですね。それをいかにその方々に負担をかけなくやってもらえるか、これは町民サービスだと思っているんで、その付近ももう少し考えてほしいなと思うんですね。だから、そんな中で、先ほど総務課長言われたように、今は無理ですけども総合窓口

なんかも考えながらいずれそういう形も取っているとそういうふうにおっしゃってくれたんですが、それは当然いずれそういう形になってほしいなと思うんですけれども。だからあまり細かい点は僕言うべきじゃないんですけども、町民サービスの中で、やはり我々一町民として役場に出向いて、これは不便だなということをもっといろんな形で皆さん声が届いてるんじゃないかなと思ったんですけど、なかなかそれが届いてなくて町民の方ではあれは何なん、これは何なんということをも自分も経験したこともあるんで、すごい細かい点を失礼ながら、2、3ちょっとお話しさせてもらいますので、耳に止めていただきたいんですけども。

まず1つ目、地籍調査の結果をちょっと見に行きたいと思ひまして、役場に来て建設課へ閲覧をお願いしたら、それは支所でないと、今本所では扱ってないということだったので、支所の方へ一応出向いたんですけども、支所のほうでこうこうでちょっと閲覧したいんですよって言うと、分厚い台帳持ってこられて、これですねってことで、うちは何々の何番地なんですけど、あとこれも何番地なんですけどって、幾つか見たかったんですけども、結構複数そういう場所があったんで、とても見ただけで分からんから、これコピーをお願いできないのかなって言いましたら、コピーはできないと。個人情報あるから多分できないんだろうとは思ひんですけども。これいわゆるテレビなんかでのり弁のように、その方々の分だけ消して、自分とこのところだけでもコピーできないのかなってこういうサービスは何で思いつかないのかなと思うんですけども、この付近ちょっと我々からすると、これ全部頭で覚えるのはなんだし、メモでちゅうのはこれはきつい。正直うちの場合は十何筆あったんで、それを全部メモ書き、もう無理だったんで、1つ、2つ、重要なだけ見てこれでいいわって思ったんで、その付近のサービスっていうのはどうなってるんでしょうね。

他には、これもまた細かい話で申し訳ないんですけども、この間、朝一番目に桐山議員が質問されてました文化センターコンサートの件、たくさんの方が来られてすごくよかったんですけども、最初満席になるかなと皆さん心配しておられたんで、少しでも多く来ればいいなっていう形で、今何人ぐらい整理券出ますかと、僕3度か4度お電話差し上げたんですけども、今200、きついね、三百十何ぼ、もう少しだなと思ひながら聞いて、あるとき、役場に来たら役場教育委員会も関係してますから、教育委員会の方に今どのぐらい出ます整理券はというと、いやちょっと私のほうでは分からないと、文化センターにお任せしてるんで文化センターに聞いてみないと分からない。

たまたま月曜日だったんで、いや今日は休み、明日も休みなんですよ。水曜日の朝にならんと分からない。ちょっとお粗末な話だなと思ったんで、せめてパソコンでつながってないんだったら、明日、明後日休みやったら休み前に今のところこれだけですよぐらいの情報共有は、教育委員会はしてないのか、向こうがされてないのかそれはよく分かりませんが、ちょっとこれも寂しいなと思ったんですけども。

あと、また本当に細かい話で申し訳ないんですけど、これは先ほどオンデマンドで美濃議員がおっしゃってましたけども、高齢者の方にタクシー・バスの助成券、今年度の予算では先ほどからおっしゃられてるように、アップされてこれはうれしいことだと思います。この間の機構の改革で総務課のほうから離れるようなお話もちらっと聞いています。

この申込みは対象者は郵便か何かで連絡があって、申し込めるとも聞いているんですけども、現場へ申し込むという場合も当然あるんですよ。

これその窓口へ行ってくださいよということになってます。つまり、今までだったら2階の総務課の窓口へ行かないと駄目ということなんですね。

目的が高齢者とか妊婦の方とか体の不自由な方いずれにしても、少しでも楽に申し込む方法だったら何で1階のフロアで申し込めるようにしないのかなと。まして2階行って、2階の総務課の扉を開けるのは、えらいよっていうおばちゃんも現にいましたんで、その付近はやっぱもう少し目線を変えていただかないと、町民サービスやってますよっていうのはやってるほうはあくまでやってるんですけど、もらうほうは言うほどもらってないよって、サービスではないよっていう感覚があると思います。

だから、今度の助成券、どこになるのか、担当分かりませんが、ぜひ1階のほうで簡単に郵便か何かのあれを持っていけば、助成券がもらえるようなそういう仕組みを少し考えてみてはどうかと思います。

もう一点、これも最終的に僕の勘違いだったような気がするんですけども、申告のことで税務課のほうへちょっとお伺いに行きまして、税務の担当の方、すごく丁寧に教えてくれまして、この方だったらどうだこうだっていう中で、この方年配でちょっとホームに入ってっていうお話の中から、障害者控除対象者の証明、これがあれば申告はいろんな面で有利ですよってことで、これはどうするのってなると、福祉課でもらってきてくださいねっていうことで、そうなんとちょっと違和感を感じたんですけど、ちょっと僕これは勘違いだったようなんですけど、いずれにしてもそういう状況があるので、や

っぱり年配の方、もしくは町民の方が来られたら、そこで大方完結できるような、そういう今の幾つかの点なんかも、それぞれの課の方はどんなに思われてますか。

○議長（美野勝男） 暫時休憩いたします。

休 憩

（午後 2時 6分）

再 開

○議長（美野勝男） 休憩前に引き続き会議を開きます。

（午後 2時 7分）

○議長（美野勝男） 米田建設課長。

○建設課長（米田和弘） それでは何点か藤井議員のほうから御質問あった部分の地籍の関係でちょっとお答えさせていただきたいと思います。

地籍調査の成果につきましては、地籍簿と地籍図その2点が永久保存として、その担当課、地籍係のほうで保管してるような形になっております。

御存じのとおり、地籍調査係につきましては、支所のほうに設置されておりますので、その1つしかない成果につきましては、向こうのほう、支所のほうで保管管理してるような状況でございます。

その成果の閲覧であったり、なんていうのかな、コピー等々につきまして、お時間をいただければ、その地籍、恐らく地籍簿の閲覧を希望されたんだろうと思います。想像されます。それにつきましては、ほかの個人さんの名前も入っておりますので、お時間をいただければ、何ていうのかな、お出しすることは可能だと思います。その辺りの説明が十分できてなかった部分につきましては、ちょっと申し訳なかったと考えております。よろしく願いいたします。

○議長（美野勝男） 坂税務課長。

○税務課長（坂 昌美） 私からは、障害者控除対象者認定書のことについて、お答えさせていただきます。

障害者控除対象者認定書は、税の所得控除を受ける場合に提出していただくものです。現在、確定申告、住民税の申告のほう受け付けてるんですけども、来られた方や、あと御家族の方などが、要介護等の認定を受けられている場合、保健福祉課と連携して、必要に応じてその場で申請をしていただいて、認定書のほうを印刷しまして、税務課のほ

うで印刷しまして、認定内容が確認できるような体制を取っておりますので、そのような体制ですので、御理解いただきたいと思います。よろしく申し上げます。

○議長（美野勝男） 曲里教育次長。

○教育次長（曲里充司） 文化センターのチケットの販売状況についてのお問合せの件ですが、もともとそのチケット販売につきましては、もちろん月曜、火曜については販売できない旨も周知はさせていただいているつもりです。その上で、その一刻を争う情報かどうかということもこちらのほうで共有する情報の中には選択肢としては持っているつもりです。かつその情報が提供すべきタイミングで提供する情報なのかどうかというの判断しているつもりでございます。

またそのチケットの販売に係るトラブルというのも非常に多くて、複数の人が案件を抱えるとトラブルの原因にもなりますので、できるだけ一極で集中させているという状況もありますので、そこら辺はちょっと御理解いただきたいと思います。

○議長（美野勝男） 坂総務課長。

○総務課長（坂 詳吾） 総務課のほうでは、タクシー助成券の件についてお答えいたします。現在、タクシー助成券につきましては、前年度ですね、前年度申請されている方にはもう郵送でですね、送ったりってことは行っております。ただ新規であるとか、そういった方については、現在は2階の総務課のほうに来ていただいて、申請をさせていただいているという状況であります。

1階にそういう窓口ですね、できないのかなということなんです、この点につきましては、ちょっとその機械を持っていったりするってということもちょっと必要になってくることもございますので、ちょっとその辺は1回できる限り住民の方の負担にならないような形で、ちょっと検討させていただきたいと思いますので御理解いただきたいと思います。

以上でございます。

○議長（美野勝男） 4番、藤井基彰議員。

○4番（藤井基彰） 丁寧な説明ありがとうございます。ただ教育次長のお話、1点だけ、チケットの要は今販売っていうか、整理券が何枚出てるかなっていうのが教育委員会で把握してなかったっていう点が、少し残念だなってことをお話ししたのであって、販売どうこうっていうのでは全然ないんです。申込数が今どの程度あるかなっていうのはやっぱり横の連絡として何らか情報共有しててもいいんじゃないかなと思ったん

で、その点のことなんです。

それから、いずれにしても、役場の方々は当然だと思いますけども、一町民として、そういう目線からするとやっぱりいろんな不便な点はまだまだあると考えることが、自分の家族からでも言われることがあると思います。だからそういう面も含めて、そういう点も含めて、ぜひ町民目線で町民サービス、DXだけに限らず、お願いしたいなと思います。そういう付近でもし町長よろしければ一言お願いしたいと思います。

○議長（美野勝男） 小川町長。

○町長（小川裕康） 藤井議員からいろいろ何点か御意見いただいて、なかなか我々も気がついてない点もあったかと思えます。いろんな角度から、それこそ町民の立場に立って、いろんな物事を考えて、それを進めていくってのは大変大事なところありますので、そういったことは我々ももっともっと中で勉強するとか、検討するとかそういうことをしていきたいなとこのように思います。はい、以上です。

○議長（美野勝男） 暫時休憩いたします。

休 憩

（午後 0 2 時 1 4 分）

再 開

○議長（美野勝男） 休憩前に引き続き会議を開きます。

（午後 0 2 時 1 4 分）

○議長（美野勝男） 以上で、藤井基彰議員の質問を終了いたします。

暫時休憩いたします。

休 憩

（午後 0 2 時 1 4 分）

再 開

○議長（美野勝男） 休憩前に引き続き会議を開きます。

（午後 0 2 時 2 4 分）

○議長（美野勝男） 続いて、1 番、徳田拓嗣議員。

（1 番 徳田拓嗣 登壇）

○1 番（徳田拓嗣） ただいま、議長の許可をいただきましたので、通告に従い、

小・中学生向けの議会開催と、紀美野町議会観覧についてを説明いたします。それと、まず最初に、今年の1月1日に発生しました石川県地震で被災された方々にお見舞いを申し上げます。

現在社会において、若い方が政治離れが続く中、紀美野町議会で行われている議会を実際に生で見たり、職員の方々にはお手数ですが、実際にこどもが議会を体験することで、町長役や副町長役、各課の課長さん役、議長役、議員役もつけて、模擬議会を開催し、体験することで、町の職員の課長の仕事や町長、副町長の役割、町の議会の役割など少しでも理解してくれることで、政治に興味が湧くと思うのですが、このことについてどう思われるかお尋ねします。

2点目ですけれども、若年層に献血への理解と啓発推進をという質問をいたします。

献血と聞くと、初めての人は採血をした血液を輸血に使うことぐらいしか思いつかないかもしれません。なぜ若年層への理解と啓発が必要なのかと言えば、コロナ禍や急速に進む少子化で、献血の現場において、献血者が減少し、影響が出ているのにもかかわらず、全国でがん、白血病、手術、出産など血液を必要としている患者さんが大勢おられることです。

日本赤十字社によると、全国の献血者数のうち、16歳から39歳まで献血した人は10年間でおよそ30%減少していると言われております。皆さん御存じのように、血液は人工的に作られないだけでなく、長期保存ができません。さらに、献血できる年齢は16歳から69歳まで過去に輸血された方、4週間以内に海外から帰国入国した人、予防接種後の時間経過等により献血できないなどの要件や、1人当たりの献血の回数、量には制限があるなどの理由により、毎日多くの方の献血が必要となるのです。将来にわたり安定的な血液を確保するためには、献血基盤を支えていただく若年層の献血者をいかに増やすかが最大の課題になっているのです。

紀美野町も献血を経験したことのない若年層や、町民に対しても、献血への理解、啓発を進めていくことが重要であると考えます。それと、採血車を利用するなどの、今の献血を支える方や、10代、20代の方へはどのような周知、啓発をされているのか、また、今後の対応についてもお聞きいたします。

以上です。

(1番 徳田拓嗣 降壇)

○議長（美野勝男）

それでは、徳田拓嗣議員の質問に対する当局の答弁を求めま

す。

曲里教育次長。

(教育次長 曲里充司 登壇)

○教育次長 (曲里充司) 徳田議員の1問目の小・中学生向けの議会開催と紀美野町議会観覧について、お答えさせていただきます。

こども議会の実施形態や審議内容などについては、実施する自治体で違いはあるものの、議会行政の意義や仕組みを理解してもらうことを目的に、まちづくりや教育行政など児童生徒に身近なテーマについて、一般質問形式で首長や教育委員会に質問、提案するといった形が多く見られます。

本町では過去に、一般社団法人海南青年会議所の御協力の下、一度試みた経緯はありますが、授業としてではなく、休日に町内小学生からの代表者で開催されましたが、それ以降は開催できていません。

近隣市町では有田川町では、各小・中学校の特定学年ごとに、議場で町長や教育長に疑問点などを質問するという取組が平成27年から始まり、第5回目が昨年の11月に田殿小学校6年生を対象に、5年ぶりに実施され、事業に位置づけたようです。

また、かつらぎ町では、平成28年度から中学生を対象として本格的に開催されるようになり、2つの中学校3年生の代表者が町長などに質問する形で、8月の休日に継続して実施されています。今年度は、町内の高等学校4名の代表者にも参加してもらい、14名で開催されたようです。事前に中学校の対象学年でまちづくりへの提案として、実現可能な内容をグループで話し合い、その意見を代表者から提案するという形を取っているようです。

本町では、こどもたちが地域生活の中で感じた疑問や要望を行政に対して問い、行政側が回答していく形は過去に中学校の社会科授業に町長が招かれ、生徒たちの質問に答えたり、一緒に考えたりする機会が数回ありました。こども議会の委員構成が特定の学校、学級の児童生徒全員であれば、社会科の内容と関連づけて中学校3年生、小学校6年生で授業として開催することは可能であると思われます。

一方、各学校の代表者となった場合には、開催日時が課題となり、教職員が引率するのか、児童生徒が参加を希望するか、小中学生の知識や考え方の差にどう対応するか、参加者以外の児童生徒と内容の共有をどう図るかなどの課題があると思われます。

こどもたちの政治への関心や、町に対する興味を高めることを目的とした場合、こど

も議会という名称にはこだわらず、議会の様子や内容が子どもたちに見える、伝えられる方策を模索することが必要であると考えます。

以上、小・中学生向けの議会開催と紀美野町議会観覧についての答弁とさせていただきます。

(教育次長 曲里充司 降壇)

○議長 (美野勝男) 森谷保健福祉課長。

(保健福祉課長 森谷善彦 登壇)

○保健福祉課 (森谷善彦) それでは徳田議員の2つ目の御質問、若年層に献血への理解と啓発推進をについてお答えさせていただきます。

国内には輸血を必要とする方が年間約120万人いると言われ、献血で集められた血液は、けがをされた方への輸血のほか、80%以上はがんや白血病、再生不良性貧血などの病気の治療に使われています。

町内で献血を実施する場合は、広報や防災行政無線、ポスターの掲示により、住民の方々に周知しているところです。令和5年度は災害の影響で中止した日もありましたが、町内で4日間、5か所で実施し、100人の方々に御協力いただきました。特に野上厚生病院附属看護専門学校で実施した際には、多くの学生の方々にも献血の御協力をいただいたところです。

しかしながら、徳田議員御指摘のとおり、全国的に少子化の影響もあり、献血可能な人口が減少し、特に10代から30代の若年層の献血者数は、この10年間で約31%減少しています。このまま若年層の献血者の減少が進んでいくと、輸血医療に大きな支障を来すおそれも懸念されております。

200ミリリットル献血は男女とも16歳から、400ミリリットル献血は男性は17歳から、女性は18歳からできます。

将来にわたって安定的に血液を確保するには、献血可能年齢前の児童生徒も含め、今まで以上に若い世代への献血への普及啓発活動が重要となっています。

このような中、令和5年6月に閣議決定された経済財政運営と改革の基本方針2023では、小中学校現場での献血推進活動が盛り込まれ、厚生労働省から文部科学省を通じて学校における献血推進活動の協力をお願いしているところです。

県においては、高校生向けの献血学習を実施しており、令和4年度以降、野上厚生総合病院附属看護専門学校の学生が患者経験者の話を聞き、献血の大切さを学んでくれて

います。

本町では現在、小中学校での献血教育は十分にできていない状況ですが、小中学校と調整しながら献血の大切さを知ってもらう機会を設けていきたいと考えておりますので、御理解賜りますよう、よろしくお願いします。

そして、児童生徒の皆さんが、学校で学んだこと、内容が御家庭へ広がり、献血にながればうれしく思います。

以上、簡単ですが徳田議員の2つ目の答弁とさせていただきます。

(保健福祉課長 森谷善彦 降壇)

○議長（美野勝男） 以上で、1回目の答弁が終わりました。

これより自席で起立して質問、答弁をしてください。

1番、徳田拓嗣議員。

○1番（徳田拓嗣） 小・中学生向けの議会開催と紀美野町議会観覧についての答弁ですが、曲里次長おっしゃったみたいに、やはり小学校の関係とか、中学校の関係で学校関係でやっぱり議会の開催は難しいとの意見があったのですが、そのとおりでしょうか。

○議長（美野勝男） 曲里教育次長。

○教育次長（曲里充司） 先ほどの答弁でもありましたが、開催する曜日にもよるとは思うんですけど、なかなか休日であればいろんな先ほど申し上げたような問題もある、課題もあるということでございます。

○議長（美野勝男） 1番、徳田拓嗣議員。

○1番（徳田拓嗣） 御答弁ありがとうございます。やはり、現在の若年層は政治に全く興味がなく、投票に行かない人が多いのが現実です。このこども議会や議会の観覧したりすることで、自分たちで投票し、代表者を国会や県議会や市町村議会に送るシステムを間近で感じることができると思います。

これをきっかけに、テレビで国会中継を見たり、県議会だよりや町の議会だよりを読んだりする子が増えるかもしれません。そして将来には町の課長さんになりたい子や、国会議員になって総理大臣を目指す子ももしかしたら出てきたり、紀美野町長になりたい子や、我々みたいに、議長や議員になりたい子が出てくるかもしれません。紀美野町民の大半は役場の3階、この議場に来た人が少ないかと思います。ぜひとも、この議会の開催と観覧の御検討のほどを。すみません。そしたらですね、その観覧とか紀美野町

議会、今されてる開催してる場をこどもたちに見るっちゅうことは可能なんでしょうか。

○議長（美野勝男） 東中教育長。

○教育長（東中啓吉） こども議会の件なんですけども、確かにおっしゃるように、18歳から投票できるようになってますが、非常に若者の投票の数が少ないであるとか、あるいは政治に無関心な若者が多いと言われてます。

それで、18歳の成人の法律ができたときには、高等学校で特に投票に行くように、政治参加するよというね、取組が各高等学校となされたと思うんです。小中学校においてももちろん議会であるとか、政治であるとか、そういったことは社会科で小学校6年生で主に勉強しますし、中学だったら3年生でね、勉強することになってます。

関心を持ってもらうために、議員おっしゃるみたいに、こども議会という方法もあるかと思いますが、去年からね、議会だよりを今まで各学校に行ってなかったんですけども、議会だよりを各学校にも配っております。実際にこの紀美野町の議員さん方がどんな質問をされて、どういうふうなことで議会がなされてるかということのを学校の授業として取り上げてもらえるような形をしています。

それによって、こどもたちがある程度、自分たちの町の議会に関心を持ってもらうということもできますし、それから、実際に紀美野町の議会での見学というのは、傍聴というのは難しい、こどもにとってはちょっとね分かりませんが、難しいかも知れませんが、例えば、国会へ見学に行くとかね、そういうことを通して、政治、あるいは議会に関心を持っていくというような学校としての取組が今なされています。

ただ単にこども議会を開催するだけがね、政治とか議会に関心を持ってもらうということではないというふうに思ってますので、いろんな取組を通してやっているところでございます。

○議長（美野勝男） 1番、徳田拓嗣議員。

○1番（徳田拓嗣） 教育長から言われたんですけども、やはりその議会だよりも前から、ずっと小学校のほうに配られているようでしたら、なおさらちょっとこういう雰囲気だけでもっていうふうになったらまた、もっと興味がこどもたちも湧いてくれるかなと私自身は思うんですけど、どうでしょうか。

○議長（美野勝男） 東中教育長。

○教育長（東中啓吉） 今おっしゃるみたいに、まずこの議会の様子をついていう話です。傍聴できたら一番いいと思うんですけどね、議会の様子を、各6年生やったら6

年生がね、全員入れたら授業としてね、やっていけると思うんですけども、児童及び乳幼児は傍聴席に入ることができないという規定があるようでございます。

ただし議長の許可を得た場合はこの限りでないということがあります。そういったことの縛りがあるのでね、実際実現できたらいいとは思いますが、以上でございます。

○議長（美野勝男） 1番、徳田拓嗣議員。

○1番（徳田拓嗣） 教育長言われたみたいに、全く可能性は、こどもたちの観覧に全く可能性はないことはないので、私自身ももうちょっと勉強して、どうやったらできるかを今後とも考えていきたいと思えます。

続きまして、若年層に献血への理解と啓発発信をということで、再質問いたします。

やはり、今の若い子っていうのは、小中学校の子でもそうですけども、18歳から29歳まで、スマートフォン持ってる確率っていうのは98%みたいです。SNSは大切な若者の情報のツールみたいですね。ほいで次に、学校での献血教育について、ちょっとお尋ねします。

生活様式の多様化により、個人自ら献血に出向いてくれるような献血誘導の環境づくりと仕組みが必要であるとして、厚生労働省は、献血について、理解と協力を願うため、高校生または教職員用に献血ホップ・ステップ・ジャンプという冊子を発行しています。これがちょっと教員用と生徒用と、インターネットで印刷したんです。こういうのがあるみたいで、大変重要な初回献血者となる高校において、献血セミナーを開催、教室でZoom参加するなど、啓発推進されています。この冊子には、なぜ献血が必要なのか、献血のできる場所や、献血の種類、16歳から可能となる献血基準や献血の流れなどが分かりやすく書かれております。また、薬の研究などにも大いに活用されていることなど、今すぐ輸血や薬が必要な人に使われるだけでなく、将来、自分や家族など、必要になったときのためにも、大いに役立つものだと分かります。このような冊子を活用し、献血可能となる16歳になる前の中学生においても、献血の必要性、有効性などについて知らせることで、献血に協力することが命をつなぐボランティアとして選択肢の一つになるかもしれません。

この冊子は、今後も年ごとに発行されると聞きました。紀美野町のこどもたち、また、そこから家族の方への献血への理解と協力の思いが広がると思えます。

学校では昨年から4年生向けに文部科学省からみんなで学ぼう献血のことという冊子が発行されていることから、義務教育においても、献血について学習していこうという

取組が始まっております。それと、小中高において、赤十字社と連携して、出前授業もいかがとは思われますが、どうでしょうか。

○議長（美野勝男） 曲里教育次長。

○教育次長（曲里充司） 徳田議員の御質問にお答えします。

先ほどおっしゃっていただいたのは、高等学校向けの 配布教材資料だと思います。小学生向けには、日本赤十字社のほうからみんなで学ぼう献血のことというのを配布を受けているところです。今後、中学校におきましては、ポスターを配布される予定にはなっているんですが、ちょっとまだ町内の学校にはポスター配布というのは、届いてない状況です。今の状況を申し上げますと、頂いたパンフレットをみんなで使ってるというか、みんなに見ていただいているというのが現状にはなっておろうかと思えます。

○議長（美野勝男） 1 番、徳田拓嗣議員。

○1 番（徳田拓嗣） さっきの質問ですけど、小中学校において、赤十字社と連携して出前授業もいかがとは、その問いはどうですか。

○議長（美野勝男） 森谷保健福祉課長。

○保健福祉課（森谷善彦） 徳田議員おっしゃられるように、献血可能年齢前の小中学校の児童生徒への理解をしてもらうということは、とても大切なことだと考えております。小中学校の授業日数の絡みもあるので、その辺りについては、学校長と日程調整しながら、できるだけ献血の大切さ、それから命を守る献血の第一歩というところで、理解が進んでいければなと考えておりますので、御理解賜りますようよろしくお願い申し上げます。

○議長（美野勝男） 1 番、徳田拓嗣議員。

○1 番（徳田拓嗣） 前向きな御答弁ありがとうございます。私自身これからも献血を今まで以上に行うことと、献血の大切さやすばらしさを訴えてまいりますので、私の質問は以上とさせていただきます。

○議長（美野勝男） 以上で、徳田拓嗣議員の質問を終了いたします。

これで本日の一般質問を終わります。

以上で、本日の日程は全部終了しました。

お諮りします。

明日6日午前9時から会議を開きたいと思えます。

御異議ありませんか。

(「異議なし」の声あり)

○議長(美野勝男) 異議なしと認めます。

よって、そのように決しました。

散 会

○議長(美野勝男) 本日は、これをもって散会いたします。

(午後 2時51分)